

北九州市立自然史・歴史博物館
(いのちのたび博物館)
年報
令和6年度



秋の特別展「お菓子のむかしばなし」会場入口

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、自然史・歴史・考古の3博物館が統合して平成14（2002）年11月3日に開館し、令和6（2024）年11月3日に開館22周年を迎えました。令和6年度は472,957人のお客様をお迎えすることができました。また、開館以来の総入館者数も900万人を達成しました。これもひとえに、当館の活動に多くの方々のご理解とご協力の賜物です、ここに厚く御礼申し上げます。

昨年度は、開館20周年を迎えた三年前、市制施行60周年を迎えた二年前に引き続き、常設展の展示リニューアルを実施し、自然史ゾーンのぼけっとミュージアムや歴史ゾーンの遣明船シアターの展示を更新しました。展示リニューアルは一区切りですが、これからも博物館の魅力向上や社会的役割への対応強化などを目指して、職員一同でさらに研鑽を積み、博物館業務に取り組んでまいります。

ここに令和6年度の年報を刊行いたします。本号には昨年度実施したリニューアルの内容についても記載しています。新たな魅力を得た当館の活動を多くの方々に知っていただき、これまで以上に、地域に根ざしながら、世界に向けて発信できる博物館を目指してまいります。皆様には引き続き、積極的なご意見を寄せていただくとともに、さらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和7年9月

北九州市立自然史・歴史博物館長
真鍋 徹

北九州市立自然史・歴史博物館「理念と方向性」

〈理 念〉

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

〈方向性〉

知的アクセス権を保障する博物館...知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館...将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館...社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

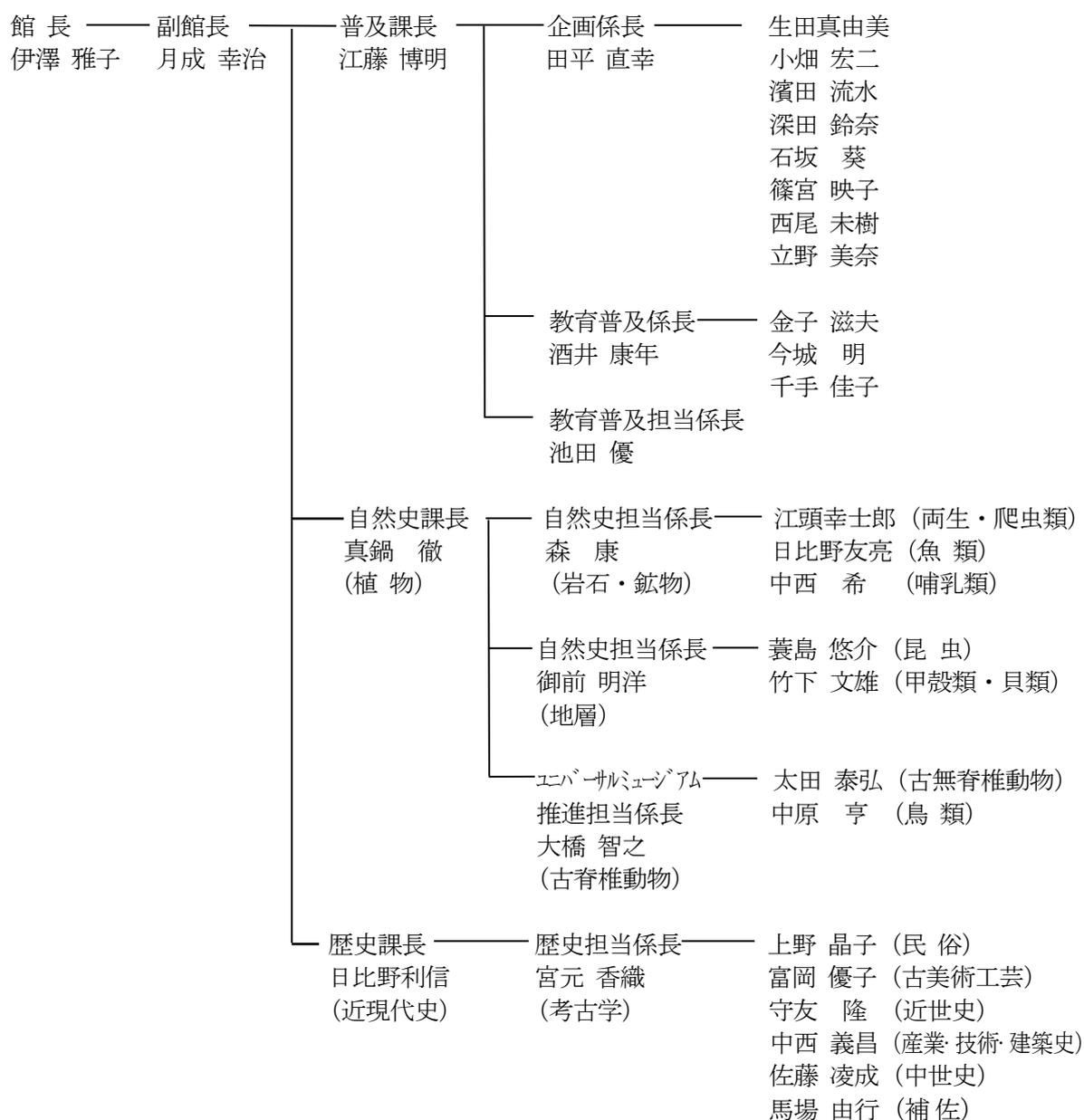
北九州市立自然史・歴史博物館「理念と方向性」

	頁
1. 組織と運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 博物館評価.....	3
4. 令和6年度予算.....	4
5. 施設概要.....	5
6. 沿革.....	6
7. 入館者の状況.....	10
8. 広報・報道実績.....	11
9. 常設展リニューアル.....	12
10. 特別展.....	14
11. 企画展など.....	24
12. 中核館としての重点事業.....	33
13. 教育普及事業特別展.....	37
14. ボランティア組織の活動.....	48
15. 博物館友の会の活動.....	50
16. 資料の収集保管状況.....	52
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	55
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	56
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	57
20. 研究業績.....	59
21. 博物館刊行物.....	67

1. 組織と運営体制

(1) 令和6年度組織

(令和7年3月末時点)



(2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005.4.1) 戸来義臣 (2007.4.1) 税田昭徳 (2007.4.1) 藤井厚志 (2008.4.1)
 岡崎美彦 (2010.4.1) 永尾正剛 (2011.4.1) 有川宜博 (2012.3.1) 上田恭一郎 (2013.4.1)
 伊藤明夫 (2015.4.1) 山根明弘 (2016.4.1) 山家桂一 (2018.4.1) 藪本美孝 (2018.4.1)
 下村通誉 (2018.4.1) 武石全慈 (2018.4.1) 馬場 稔 (2019.4.1) 松井和幸 (2019.4.1)

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員 (任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日) ※委員は五十音順

会長	阿部 芳久	九州大学大学院比較社会文化研究院教授*
副会長	杉山未菜子	福岡市博物館学芸課長*
委員	井上 龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役
	緒方 泉	九州産業大学地域共創学部教授 (大学美術館長)
	鬼本佳代子	姫路市立美術館学芸課長
	門田 真奈	北九州市立大学文学部 (学部生) **
	須藤 朋美	九州工業大学大学院工学研究院助教
	立花 昭一	北九州市立浅川中学校長
	富田 幸光	国立科学博物館名誉研究員
	針尾 泰久	北九州市立赤坂小学校校長
	舟橋 京子	九州大学大学院比較社会文化研究院准教授*

*博物館外部評価小委員会委員 **公募委員

(2) 開催日時

令和6年9月13日 13:30～15:30 対面で開催

(3) 協議内容と主な意見

1) 令和5年度の事業実績について

- ・ボランティアの高齢化が感じられる。若い世代のキャリア形成、社会貢献やインターンシップ等の場として、文化芸術そして博物館は大きな意味を持っている。この点についてビジョンを持った方が良い。
- ・不登校児童へのオンライン授業 (教育委員会と連携した「みらいへのとびらオンライン授業」) については、博物館が社会に貢献していることを示す取り組みであり、画期的なものであるもので、もっとPRした方が良い。

2) 令和5年度の博物館評価について (本年報「3 博物館評価」を参照)

- ・定量的な指標だけでなく、定性的な指標が少ないところに課題があると感じる。モニタリングによる評価もあり得る。アンケート調査や内容や方法を十分に検討する必要がある。

3) 令和6年度の事業計画について

- ・歴史資源のアーカイブの構築は大変重要な課題である。具体的な計画を教えてください。
(回答) 博物館のある東田地区から北九州市の歴史資源、さらに自然史標本を含む博物館資料へと対象を拡充しながら、まずは試行的に作業をおこなっている。
- ・博物館ホームページのリニューアルについて、具体的に現在のホームページの何が問題で、どのようにリニューアルする計画なのか。ホームページのアクセス数などを分析しているのか。
(回答) 現在のホームページは文字情報が多い。写真等を活用してインパクトのあるものにした。外国語ページを作成するので、韓国や中国に精通している方に参加していただき、コンペ形式で業者を決定して、魅力的なホームページの構築に努めている。国別のアクセス数について分析できていないが、韓国が最も多く、中国も本土より香港や台湾の方が多く思う。

4) その他

- ・自然史と歴史、人文系相互、アートというエッセンスなどを加えた施設間・分野間の連携が重要である。

3. 博物館評価

(1) 評価方法

1) 評価項目

資料収集・保管活動や調査研究活動など常置 7 評価項目に加え、その他として北九州ミュージアムパーク創造事業を評価項目として選定した。

2) 評価基準

各評価項目は、A：大変良い、B：概ね良い、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価した。評価に際しては、北九州市の目標管理制度を参考に、定量的な基準および定性的な実績を総合的に加味し、達成度が120%以上の場合をA、120～80%をB、80～40%をC、40%未満をDとした。

3) 自己評価

各評価項目に係る活動を、博物館職員が上記の評価基準に則り評価した。

4) 外部評価

博物館協議会委員から、同協議会会長を委員長とする3名の外部評価小委員会委員を選出した。これら3委員による外部評価小委員会において、博物館に対するヒアリングなどを行い、外部評価小委員会案を作成した。その後、博物館協議会において同案を審議し、必要に応じて修正を行い、外部評価を確定させた。

(2) 令和5年度の評価

1) 資料収集・保管活動	自己評価：B	外部評価：B
2) 調査研究活動	自己評価：B	外部評価：B
3) 展示活動	自己評価：B	外部評価：B
4) 教育普及活動	自己評価：A	外部評価：A
5) 広報・情報発信活動	自己評価：B	外部評価：B
6) 市民との連携	自己評価：A	外部評価：A
7) 社会貢献	自己評価：A	外部評価：A
8) その他（北九州ミュージアムパーク創造事業）	自己評価：A	外部評価：A
<総合評価>	自己評価：B	外部評価：B

(3) 総合評価に係る協議会での意見

- ・評価指標について、他律的要素と自律的要素が混在しているように見受けられる。点検・評価から、諸活動の質の向上に資するフィードバックを得るには、他律的要素と自律的要素を峻別するなど、評価体系の見直しを検討してはどうか。

4. 令和6年度予算

(1) 博物館の歳入と歳出

(単位：千円)

歳 入		歳 出	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	165,166	企画展・特別展開催経費	55,500
社会教育施設貸付料	1,428	資料整備・調査研究経費	11,479
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,371	教育普及経費	2,300
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	51,329	博物館維持管理経費等	313,207
計	219,294	計	382,486

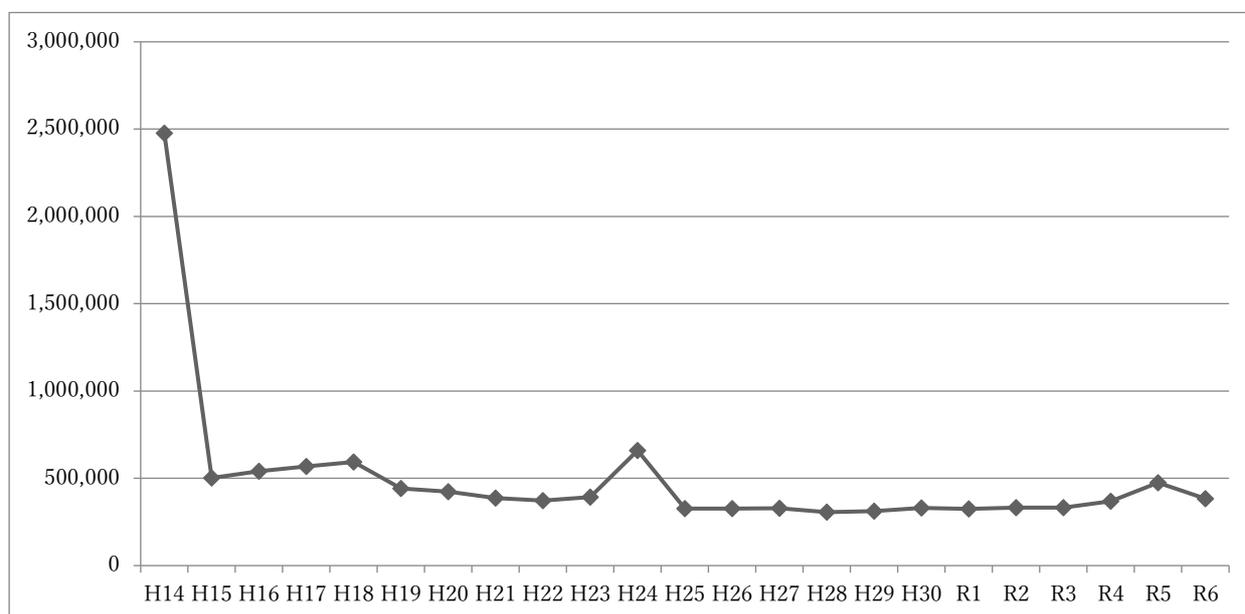
(2) 博物館予算（歳出）の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		うち太陽光 発電設備整 備 32,000	うち太陽光 発電設備整 備 60,000	うち太陽光 発電設備整 備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			うち博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
予算額	330,620	325,027	332,904	332,719	368,013	474,585	382,486	
備 考					うち開館20周 年記念イベント事 業 40,300	うち博物館外 壁改修外工事 104,000	うち熱源改修工 事関連 17,300、 プレハブ冷凍庫 関連 9,400	

(3) 博物館予算(歳出)の推移(グラフ)

(単位：千円)



5. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造）地上3階

各室面積（単位：m²）

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール（PMを除く）	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム（PM）	253	生物系研究室（植物・昆虫）	29	副館長室	25
エンバイラーム館（リサーチゾーンを含む）	1,067	生物系研究室（動物・魚類）	29	事務室	163
自然発見館（バイオリウムを含む）	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示（カルチャーモールを含む）	1,755	燻蒸室（前室を含む）	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム（乳幼児対象）	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム（小学生対象）	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室 S	30
		液浸標本処理室	30	会議室 R	30
		技工室	60	会議室 X	49
		整理室	60	外来市民研究室	37
		暗室（前室を含む）	26		
		撮影室	41		
		電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
		保存科学室	40		
		薬品室・特殊薬品室	25		
		シャワー室	6		
		器材倉庫	14		
情報部門	1,018			サービス部門	463
ホール（オープンギャラリーを含む）	509			ミュージアムショップ	156
ガイド館（倉庫2を含む）	386			休憩ルーム	206
市民ライブラリー	45			休憩デッキ	101
探究部門	204			供用部門	5,171
実習室	123				
講座室	81				
収蔵部門	2,506				
荷解室	96				
一時保管室	64				
組立室	52				
冷凍室・冷蔵室（前室を含む）	49				
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221				
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫（金属器を含む）	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				合計	17,011

6. 沿革

- 昭和 50(1975)年 8月 **北九州市立歴史博物館が小倉北区内に開館 (8/1)【歴史】**
- 昭和 51(1976)年 5月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石
ディプロミスタスが発掘される【自然史】
- 昭和 53(1978)年 4月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
- 昭和 54(1979)年 1月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)【自然史】
- 昭和 56(1981)年 5月 **北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)【自然史】**
- 昭和 58(1983)年 8月 **北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1)【考古】**
- 昭和 59(1984)年 9月 北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆虫」展を開催【自然史】
- 12月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
- 平成 5(1993)年 4月 考古博物館友の会発足【考古】
- 平成 7(1995)年 5月 展示解説ボランティア制度発足【考古】
- 平成 8(1996)年 7月 展示解説ボランティア制度発足【自然史】
- 10月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
- 平成 11(1999)年 6月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 13(2001)年 3月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 11月 **北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3)**
小野勇一館長が就任 (11/3)
開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
- 平成 15(2003)年 3月 開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
- 4月 特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871人)
- 7月 特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
- 9月 特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
- 10月 特別展「発掘された日本列島 2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
- 12月 企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
- 平成 16(2004)年 1月 企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)
- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38日間)
- 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31日間 : 14,262人)
- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51日間 : 50,712人)
- 10月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87日間)
- 10月 企画展「襦袢の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52日間)
- 平成 17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50日間 : 11,590人)
- 3月 特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51日間 : 26,638人)
- 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51日間 : 76,623人)
- 10月 入館者 100万人達成！(10/26)
- 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24日間 : 3,739人)
- 12月 特別展「恐竜博 2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99日間 : 207,397人)

- 平成 18(2006)年
- 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28：30日間)
 - 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」(7/15～9/3：51日間：76,008人)
 - 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26：65日間)
 - 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」
(12/14～3/31：104日間：63,811人)
- 平成 19(2007)年
- 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
 - 7月 開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2：58日間：96,103人)
 - 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
 - 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成 20(2008)年
- 3月 入館者 200万人達成！(3/22)
企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
 - 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
 - 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
 - 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
 - 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成 21(2009)年
- 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
 - 3月 企画展「ひとと海のものごたり」(3/1～5/10：71日間)
 - 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
 - 7月 特別展「恐竜ラボ 2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
 - 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成 22(2010)年
- 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
 - 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
 - 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？なにをたべているのかな？」
(3/20～5/30：72日間：28,327人)
 - 4月 伊藤明夫館長が就任(4/1)
 - 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
 - 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
 - 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成 23(2011)年
- 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
入館者 300万人達成！(1/15)
 - 2月 入館者 300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
 - 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
 - 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
 - 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線～」
(10/7～12/11：66日間：11,493人)
 - 2月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 平成 24(2012)年
- 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
 - 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人)
同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
 - 4月 博物館を市長事務部局(市民文化スポーツ局、現都市ブランド創造局)の補助執行とする

- 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
- 10月 特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ～とおきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
- 12月 リニューアル工事休館(12/3～3/22)
- 平成25(2013)年 3月 リニューアルオープン(3/23)
- 4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
- 7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者400万人達成！(7/25)
- 9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」
(9/14～11/4：52日間：20,990人)
- 12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」
(12/21～28, 1/2～2/11：49日間：24,852人)
- 平成26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)
年間入場者60万人超達成！(3/31：622,701人、最多)
- 7月 特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
- 11月 特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
- 平成27(2015)年 3月 特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
- 4月 上田恭一郎館長が就任
- 7月 入館者500万人達成！(7/4)
入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)
- 10月 入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からIPS細胞まで～」
(10/10～1/11：90日間：20,058人)
- 平成28(2016)年 1月 特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)
- 3月 特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
- 7月 特別展「恐竜博2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
- 10月 特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
- 11月 第1回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11：29日間)
その後、中国大連市・旅順博物館、韓国・仁川広域市立博物館に巡回
(旅順博物館2017年1/10～2/5：9,365人、仁川広域市立博物館2017年2/14～3/19：8,727人)
- 平成29(2017)年 1月 特別展「発掘された日本列島2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
- 3月 特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間50,594人)
- 7月 開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3)
開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)
入館者600万人達成！(7/27)
- 10月 開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)
開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：11,436人)
- 12月 開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」
(12/23～2/25：61日間：37,227人)
- 平成30(2018)年 3月 特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
- 7月 特別展「へんでこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
- 10月 特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人)
※中国旅順博物館企画の第2回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活-中日韓の箸の文化」を拡大

	11月	東田ミュージアムパーク食の祭典 2018 (11/17～18)
	12月	特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」(12/22～2/11 : 48 日間 : 22,099 人)
平成 31(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12 : 58 日間 : 47,859 人)
令和元(2019)年	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16 : 66 日間 : 119,013 人) 入館者 700 万人達成！(7/10)
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」(10/12～12/1 : 51 日間 : 8,456 人)
令和 2(2020)年	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11 : 49 日間 : 23,154 人)
	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 (2/28～5/18)
	4月	伊澤雅子館長が就任 (4/1)
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日限定開館 (5/19～5/29)、臨時休館 (5/30～6/21)
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館 (6/22～8/7)
	8月	Web 事前予約システム導入 (8/3～)
令和 3(2021)年	1月	特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」—戦国を生き抜いた武士の絆—」 (1/2～2/14 : 44 日間 : 6,718 人)
	3月	特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる—」 (3/6～4/4 : 30 日間 : 17,503 人)
	4月	北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」 (4/29～5/30、うち 5/12～5/30 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 : 16,289 人)
	7月	特別展「THE モンスター展 II」(7/17～9/26 : 76 日間 : 57,731 人)
	10月	特別展「鉄の都のものがたり～釜石と八幡～」(10/16～11/28 : 44 日間 : 6,845 人)
令和 4(2022)年	1月	特別展「博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～」(1/2～1/31 : 30 日間)
	3月	特別展「まるごとウマ展～ウマと人のキズナ～」(3/19～5/8 : 51 日間 : 20,516 人)
	7月	開館 20 周年記念特別展「昆虫博 2022」(7/16～9/4 : 51 日間 : 81,554 人)
	10月	開館 20 周年記念特別展「トイレのうんちく展」(10/1～11/23 : 54 日間 : 27,193 人) 入館者 800 万人達成！(10/19)
	11月	開館 20 周年記念式典 (11/3)
	12月	開館 20 周年記念特別展「うなぎの旅展」(12/10～1/29 : 48 日間 : 10,788 人)
令和 5(2023)年	2月	リニューアル工事休館 (2/1～3/3)
	3月	リニューアル開館 (3/3 記念式典、3/4) 開館 20 周年記念特別展「世界の野生ネコ科展」(3/4～5/7 : 65 日間 : 55,768 人)
	7月	特別展「恋するいきもの展」(7/15～9/18 : 66 日間 : 58,286 人)
	10月	特別展「なつかしい暮らしと道具展」(10/14～12/3 : 51 日間 : 26,006 人)
	12月	リニューアル記念式典 (12/26) 特別展「博物館のお正月 2024～辰～」(12/26～12/28, 1/2～2/18 : 51 日間)
令和 6(2024)年	3月	特別展「カラーズ～自然の色のふしぎ展～」(3/16～5/6 : 52 日間 : 37,154 人)
	4月	特別展「ゾクゾク発見！両生類・は虫類展」(7/13～9/16 : 66 日間 : 107,649 人)
	10月	特別展「お菓子のむかしばなし展～あまい！うまい！うつくしい！スイーツヒストリー～」 (10/12～12/8 : 58 日間 : 24,209 人)
令和 7(2025)年	1月	特別展「博物館のお正月 2025～お正月をさぐる～」(1/2～2/2 : 32 日間)
	3月	入館者 900 万人達成！(3/11) 特別展「絵本でたどるいのちのふしぎ かこさとし×いのちのたび博物館」 (3/15～5/6 : 53 日間 : 26,603 人)

7. 入館者の状況

開館以降の年間入館者数と累計

(人)

年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
H14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.1%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100.0%)	6,890,477
R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27.0%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100.0%)	7,343,340
2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100.0%)	7,481,076
3	114,885 (47.5%)	10,300 (4.3%)	53,034 (21.9%)	63,517 (26.3%)	241,736 (100.0%)	7,722,812
4	185,101 (46.0%)	14,981 (3.7%)	99,650 (24.7%)	103,087 (25.6%)	402,819 (100.0%)	8,125,631
5	202,696 (47.0%)	16,033 (3.7%)	114,470 (26.6%)	98,079 (22.7%)	431,278 (100.0%)	8,556,909
6	221,496 (46.8%)	19,208 (4.1%)	125,125 (26.4%)	107,128 (22.7%)	472,957 (100.0%)	9,029,866

※展示リニューアル工事のため休館

平成24年度 12/3～3/22 令和4年度 2/1～3/2

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館

令和元年度 2/28～3/31 令和2年度 4/1～5/18、5/30～6/21は休館 また5/23～8/2は土日祝日を休館

令和3年度 5/12～6/20は休館、8/10～9/12は常設展のみ休

8. 広報・報道実績

(1) 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数

7 件

(2) 特別展等関連広報・報道状況記録

展覧会名	新聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	インターネット
春の特別展「カラズ～自然の色のふしぎ展」 ※R6.4月1日～5月6日まで	84	4	26	11	7
夏の特別展「ゾクゾク発見！両生類・は虫類展」	191	13	519	8	9
秋の特別展「お菓子のむかしばなし展」	177	9	0	2	11
春の特別展「絵本でたどるいのちのふしぎ」 ※～R7.3月31日まで	51	5	0	2	8
合 計	503	31	545	23	35

その他（特別展以外）

ア) 新聞 9紙 14件
「オヤニラミ属の新たな外来種について」
「美祢市産新種ハチ化石の特別展示」

イ) 雑誌等 17誌 17件
「雑誌 Pen」、「全国 恐竜めぐり」、「九州パパママ Walker」

ウ) テレビ 7社 21件
「まじもん！」（RKB毎日放送）、「華丸・大吉のなんしようど？」（テレビ西日本）

エ) インターネット 18社 28件
「じゃらんニュース」（株式会社リクルート）
「クロスロードふくおか」（株式会社トラベルジップ）

(3) ホームページアクセス数

トップページ 570,521件 全ページ 1,794,023件

(4) SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram、YouTube）

SNS	アカウント名	投稿件数	フォロワー数
X	北九州市立いのちのたび博物館	85	11,167
	特別展の公式アカウント	185	707
Facebook	北九州市立いのちのたび博物館	157	4,050
Instagram	北九州市立いのちのたび博物館【公式】	155	3,672
YouTube	北九州市立いのちのたび博物館	0	804

(R7/5/6 現在)

9. 常設展リニューアル

(1) 自然史ゾーン

ぽけっとミュージアム No.6 を、各種動物の体のつくりについて解説する「動物のボディプランの進化」展に変更した。開口部には「生きている化石」ともいわれるオオサンショウウオ類について、館蔵の世界最大級標本を配置した。このほか、動物の誕生以降の形状の進化を見て学べるよう、動物界全体から幅広い分類群を抽出し、それらについてできる限り同一の手法で作成された標本を用いて展示した。

収蔵展示として、前年度までに生物系（ぽけっとミュージアム No.3）と学校標本（ぽけっとミュージアム No.8）を構築したが、今年度はリサーチゾーンに地学系の「収蔵展示」スペースを設け、博物館活動の標本収集・保管についての周知と展示の更なる魅力向上に努めた。市内産出の恐竜化石をはじめとした当館がこれまでに採集・購入等で入手した様々な標本を、クリーニング前の保管状態やコンテナでの収納など多様に展示することで収蔵庫の様子を再現し、今後の研究や展示等で入れ替わりがあることなど収蔵庫の機能について解説をしている。

(江頭幸士郎・大橋智之)



自然史ぽけっとミュージアム No.6
「動物のボディプランの進化」外観



世界最大級のオオサンショウウオ類標本



リサーチゾーン収蔵展示の様子

(2) 歴史ゾーン

テーマ館「鎌倉・南北朝・室町時代の北九州」のうち、遣明船シアターの展示更新をおこなった。同シアターは、室町時代に日本と明との交易をおこなった遣明船の船内を模した空間であり、日明貿易が始まった経緯や貿易の様子、そして貿易において北九州が果たした役割をアニメーション映像とナレーションで紹介するコーナーである。今回のリニューアルでは、より多くの方に内容が伝わる展示とすること、および展示への没入感を高めることを目的とした。主なリニューアル点は下記2点である。

一点目は、映像への字幕追加である。映像は、登場人物の語りとナレーションにあわせて進行するが、従来は字幕がついていなかった。今回のリニューアルでは、字幕を新たに追加するとともに、難読漢字にはルビを振ることで、聴覚が不自由な方や日本語初学者にも内容が伝わるよう配慮した。

二点目は、交易品の展示追加である。従来のシアターは、積荷箱や袋を設置し、映像に絹織物や陶磁器などの交易品のイラストが映し出されるのにあわせて積荷にスポットライトがあたる仕組みになっていたが、これでは実際の交易品のサイズ感や手触りなどが伝わらず、没入感にかけていた。したがって、映像に登場する交易品を中心に、そのレプリカ（一部は現物）を新たに展示することで、映像の内容や日明貿易の様相をより深く理解するための補助とした。また、一部はハンズオン展示として、手触りや重量感、匂いを実感していただけるコーナーを設けた。これにより、来館者に映像を見ていただくだけでなく、楽しみながら学んでいただける空間とすることを企図した。なお、新規に展示した交易品は下記のとおりである。

永楽銭、絹織物、青磁碗、書籍・書画、扇子、硫黄、瑪瑙、香木（白檀）、香辛料（肉桂・黒胡椒・丁香）

このうち、永楽銭、絹織物については、実際に手に触れて重さや手触りを感じることができるハンズオン展示とした。また、香木および香辛料については、においを嗅ぐことができる展示とした。

リニューアル後には、低年齢層を含む家族の来館者が、シアター内に滞在する姿が多くみられるようになった。また、ハンズオン展示についても、年齢層を問わず関心をもっていた様子が見られた。

(佐藤凌成)



遣明船シアター



遣明船の交易品の紹介

10. 特別展

(1) カラーズ～自然の色のふしぎ展～

期 間：令和6年3月16日（土）～5月6日（月）

52日間（前年度からの継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 700 円（団体 560 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：37,154 人（全会期、令和6年4月1日以降は23,668人）

担当学芸員：中原 亨・真鍋 徹

主 催：北九州市立いのちのたび博物館

後 援：福岡県教育委員会

特別協力：毎日新聞社、九州朝日放送

協 力：きしわだ自然資料館、兵庫県立人と自然の博物館、山口県立山口博物館、綾の手紬染織工房、佐藤望、田中啓太、徳江紀穂子、中村豊、廣田峻、福原達人、森本元、渡部哲也、Alfredo Attisano（敬称略）

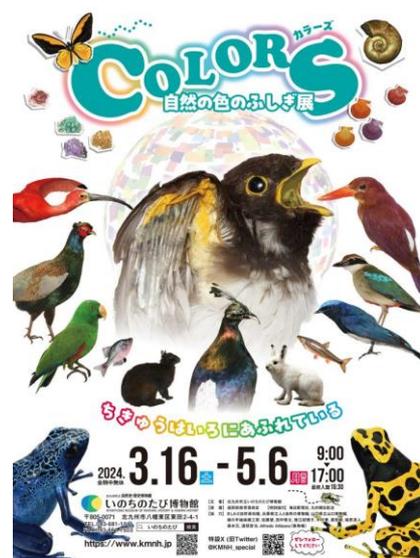
概 要

自然界の色、特に多彩な生きものの色に注目した特別展。様々な標本とともに生きものの色を紹介し、なぜその色をまとっているのかという謎に対し、生存・繁殖戦略や進化の視点から迫った。また、人間がどのように自然の色を生活に取り入れてきたのかについても紹介した。会場内には、「なぜ？」と問いかけるパネルをたくさん用意し、色にまつわる謎やふしぎについて、考える機会を提供した。

1. オープンギャラリーを使用した色彩別展示：アイキャッチとして展示スペースを色彩別に用意し、紫・藍・青・緑・黄・橙・赤・白・黒・白黒模様・キラキラ・色とりどりの自然物をそれぞれまとめて展示した。
2. 第1章「生きものの色」：生きものの色の発色に注目し、色素由来の発色と構造色による発色の仕組みと、それぞれの仕組みによる色を持つ生きものの標本を紹介した。また、色彩変異に注目し、色彩の個体差が生じる理由やバリエーションの広さについて、標本を通じて解説した。さらに、人為的に選抜されて生じた品種についても紹介した。
3. 第2章「生きるための色」：長い時間をかけて生じた生きものの色彩の進化に注目し、その背景を考える展示を行った。特に、昆虫や鳥類の擬態、有毒生物の警告色、魚類の婚姻色、鳥類の生殖羽と非生殖羽、鳥類の性的二型、動植物間相互作用で生じた花や果実の色の進化といったトピックに関わる標本を集めて展示した。また、人間と他の生物の色覚のちがいなどにも触れて解説した。
4. 第3章「人の暮らしと自然の色」：人間が試行錯誤して暮らしの中に取り入れてきた色について紹介した。特に顔料や染料、食用色素については、原料と加工品を並べて展示した。構造色を利用した工芸品（螺鈿細工）やお土産品も紹介した。また、日本の伝統色のもととなった自然物を、その色見本とともに展示した。

主な展示標本

展示標本の合計点数は約 450 点に達した。オープンギャラリーの色彩別展示では、構造色の美しいニジキジやヤイロチョウの剥製、アカメアマガエル・ハクセンシオマネキの拡大模型、ラフレシアのレプリカ、ヒクイドリやコブハクチョウの剥製、色とりどりのウミウシ類の液浸標本など、目を引きやすい



標本をピックアップして展示した。第1章「生きものの色」では、色素由来の色を持つハシブトガラス、フラミンゴ類、ショウジョウトキの剥製、構造色をもつモルフォチョウ類やプラチナコガネ類の標本、黄色と黒色の2タイプが存在するジャガーの剥製、突然変異によって生じるトラやイノシシの白変個体の剥製、色彩に地理的変異のあるヤマドリ of 剥製やオオルリオサムシの標本、ニワトリの品種などを紹介した。第2章「生きるための色」では、翼に口に似た黄色い色のパッチを持ち、宿主（仮親）を欺いて食べ物を多く手に入れる托卵鳥ジュウイチのヒナの剥製、宿主の卵に擬態したカッコウ類の卵標本、性的二型の大きなカモ類やオオハナインコの剥製、貝紫染めや草木染めの糸、鴉色や狐色のもととなったトキやホンDIGツネの剥製などを展示した。また、生体展示として色彩の異なる3種のヤドクガエル、アオダイショウの通常色個体とアルビノ個体、紫外線蛍光を示すクロスサンカクヘビを展示した。

関連事業

関連イベントとして「お花見ナイトミュージアム」（3月30日）を行った。

（中原 亨）



紫色・藍色・青色・緑色を代表する生きものの展示



黄色・橙色・赤色を代表する生きものの展示



生きものの色彩変異に関する展示



カッコウ類の托卵と擬態に関する展示



鳥類の性的二型に関する展示



貝紫染めの糸と原料となったアカニシの標本

(2) ゾクゾク発見！両生類・は虫類展

期 間：令和6年7月13日（土）～9月16日（月・祝）66日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人900円（団体720円）、高・大生600円（同480円）、
小・中生500円（同400円）、未就学児無料

観覧者数：107,649人

担当学芸員：江頭幸士郎・日比野友亮

主 催：ゾクゾク発見！両生類・は虫類展実行委員会（北九州市立
いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB毎日放送）

後 援：福岡県教育委員会、TYSテレビ山口

協 力：鬼山地獄、北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会、
高田爬虫類研究所、橋元浩一氏



概 要

「きもちわるいもの」「こわいもの」と思われがちな両生は虫類について、標本や生体の展示を通してその魅力や、現在置かれている自然下の状況などを解説した。また、日本でも近年新種の発見が相次ぐこの仲間のもつ生物としての多様性を紹介した。触れる実物標本、館独自に改良を進めている手法で作成された標本など、標本の形態としても多様なものを揃え、博物館ならではの展示となることを目指した。本展示では全ての資料ラベルに英名・題を併記することで、近年増加しつつある外国人来館者への配慮としたほか、触れる展示の台には車椅子・ベビーカー使用者への配慮を工夫した。

主な展示標本

- ・大型標本：イリエワニ、オオサンショウウオ類など
- ・新種両生類・は虫類の展示：ヒメタゴガエル、ゴトウタゴガエル（模式標本）、ホムラハコネサンショウウオ（国立科学博物館より借用）など
- ・触れる展示：アミメニシキヘビのグリセリン皮標本、イリエワニの乾燥皮標本、ウミガメ類の剥製標本（いずれも館蔵）
- ・生体展示：ブラジルカイマン（ワニ）、ニジボア（ヘビ）、ケヅメリクガメ、ギアナカイマントカゲ、ジュウジメドクアマガエル、ヤドクガエル各種など

関連事業

ナイトミュージアム（期間中3回）、さわってみようへび&カメ（4回）、えさやり見学（原則毎週火・水曜日）を開催した。

（江頭幸士郎）

展示の様子



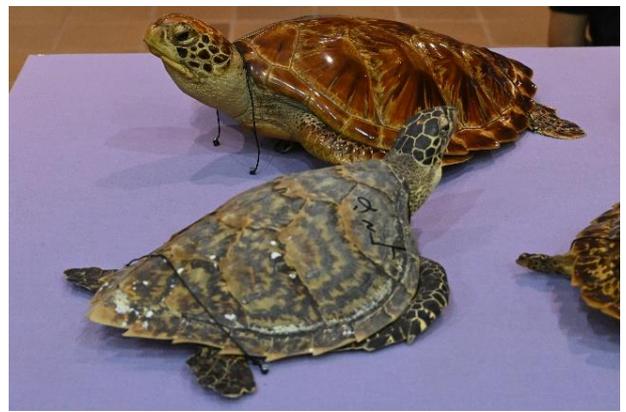
展示場(中央は大型イリエワニ剥製)



新種ゴトウタゴガエル模式標本



触れるニシキヘビ標本



触れるウミガメ標本



ジュウジメドクアマガエル



ヤドクガエル類

(3) お菓子のむかしばなし展～あまい！うまい！ うつくしい！スイーツヒストリー～

期 間：令和6年10月12日（土）～12月8日（日）
58日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人800円（団体640円）、高・大生600円（同480円）、
小・中生100円（同120円）、未就学児無料
※小・中学生は「こどもまんなか事業」により100円

観覧者数：24,209人

担当学芸員：上野晶子・宮元香織

主 催：お菓子のむかしばなし展実行委員会

（北九州市立いのちのたび博物館、東田ミュージアムパーク実行委員会、毎日新聞社）

協 賛：シュガーロード連絡協議会

後 援：福岡県教育委員会

特別協力：毎日新聞社、九州朝日放送

協 力：永照寺、折尾愛真高等学校、学校法人大原学園、株式会社北島、株式会社如水庵、株式会社鶴屋菓子舗、株式会社虎屋 虎屋文庫、河合町・河合町教育委員会、関門製糖株式会社、北九州市菓子組合、九州国立博物館、京都府京都文化博物館、京都府立京都学・歴史館、公益財団法人北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室、佐賀県立博物館・佐賀県立美術館、JA 筑前あさくら、西南学院大学博物館、長崎市文化観光部出島復元整備室、長崎歴史文化博物館、彦根城博物館、福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター、福岡県菓子工業組合、前川佳代氏、吉田隆一氏

助 成：全国科学博物館活動等助成事業

概 要

日本の菓子の歴史を通して、外来文化の影響を受けながら発展した日本の菓子文化に注目した特別展。古代から江戸時代までの菓子を中心に、古文書や絵画資料や、和菓子屋に伝わる貴重な菓子道具類、菓子文化研究者吉田隆一氏の菓子コレクションを紹介した。「菓子」という身近なテーマで、ハンズオンやクイズなども設置し、小さな子どもも楽しめる歴史展示を目指した。

1. オープンギャラリーを使用した導入展示：砂糖の種類や製造方法、砂糖細工、菓子にみえる鉱物や、香りを楽しむコーナーなど、視覚や嗅覚を意識した導入展示を行った。また、シュガーロード連絡協議会の協力により「日本遺産・砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」のパネルを展示した。
2. 第1章「日本の菓子の歴史～菓子のルーツと外来文化の影響を探る」：古代、中世、近世の時代を象徴する菓子を通して、海外との交流や菓子の受容や変化について紹介した。また、当館学芸員が取り組んでいる甘葛煎や唐菓子を再現展示し、最新の研究成果を来館者に分かりやすい方法で展示した。
3. 第2章「吉田コレクションにみる菓子の世界」：日本を代表する菓子コレクションの一つである吉田隆一氏のコレクションのなかから、浮世絵、菓子製法書、菓子絵図帳、菓子道具類などを展示した。江戸時代を中心とする菓子の発展や、人びとの菓子への情熱の一端を紹介した。
4. 第3章「お菓子の世界 いと「をかし」」：菓銘の響きを聞いて菓子を想像するクイズや歴史上の人物に関する菓子クイズ、上生菓子を製造する工程を紹介する動画など、「をかし（面白い、興味深い）」と思わせるコーナーを目指した。



主な展示資料

第1章ではナガレ山古墳の土製品や「紅毛人菓子食用異物図」（国指定重要文化財・彦根城博物館蔵）などを通して、当時の菓子の姿を紹介した。また、博多遺跡群出土の茶入れや茶器類（一部国指定重要文化財・福岡市蔵）、「洛中洛外図屏風」（国指定重要文化財・福岡市博物館）などから、海外との交流や当時の人びとの生活を紹介した。また、和菓子屋に伝わる菓子を入れる容器や絵図帳など、貴重な資料を展示した。第2章では菓子文化研究家吉田隆一氏が蒐集したコレクションのなかから、年中行事や人生儀礼に関する菓子が描かれた浮世絵や、菓子製法書、菓子絵図帳、菓子木型、容器や看板、チラシなどを通して、日本の菓子の発展や多彩な文化を紹介した。

展示会場には、唐菓子、饅頭、羊羹、鶏卵素麺、カステラ、金平糖、上菓子といった各時代を象徴する菓子を食品サンプルで再現して展示した。これらはアイキャッチの効果もあり、来館した子どもたちからは、美味しそう、という声が聞こえた。

関連事業

- ・シンポジウム「古代の菓子を考える」：10月19日（土）
基調講演：前川佳代氏（奈良女子大学）
関連報告：宍戸香美（奈良女子大学）、森由紀恵氏（同前）、土居規美氏（奈良文化財研究所）
宮元香織（北九州市立自然史・歴史博物館）
- ・ハロウィンナイトミュージアム：10月26日（土）
- ・講演会「江戸時代に花開いた菓子文化」：11月9日（土）（博物館歴史友の会と共催）
森田環氏（株式会社虎屋 虎屋文庫 上席研究員）
- ・ケーキ飾り「マジパン」作り：11月16日（土）、折尾愛真高等学校製菓部
- ・お抹茶とお菓子で「おかしのはなし」：11月23日（土）、裏千家

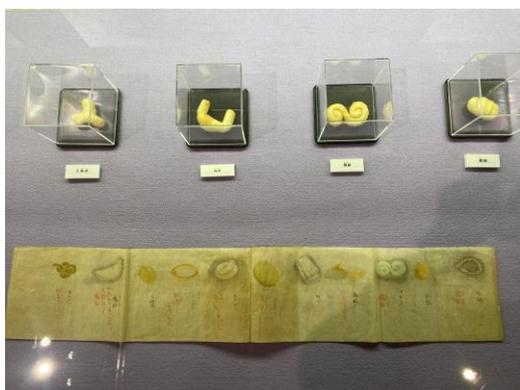
（上野晶子）



導入展示の砂糖菓子細工



菓子木型（吉田隆一コレクション）



描かれた唐菓子と米粉で再現した唐菓子



ハンズオン

(4) 博物館のお正月 2025～お正月をさぐる～

期 間：令和7年1月2日（木・祝）～令和7年2月2日（日）
32日間

会 場：オープンギャラリー

入 場 料：常設展料金で観覧可能

観覧者数：26,277人（会期中の常設展入場者数）

担当学芸員：真鍋 徹・守友 隆

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館

協 力：独楽工房隈本木工所（隈本コマ）

カイトハウスまごじ

概 要

日本では古くから、お正月に「特別なもの」をかざったり食べたりしてきた。それら「特別なもの」は、なぜお正月に使われるようになったのだろうか。また、それらのなかには、今ではほとんど見かけなくなったものもある。わたしたちになじみ深いお正月だが、そこには知っていそうで知らないことがたくさんあるかもしれない。今回の展示会では、お正月の「特別なもの」を集めてみた。これら「特別なもの」から、わたしたちがお正月をどうとらえ、どう過ごしてきたのかなど、日本のお正月を探ってみた。

1.はじめに

2.コーナー1『いのたんからの挑戦状 正月のなぜとなに』

- 2-1) お正月に「しめ縄」をかざるのはなぜ？
- 2-2) お正月に「おもち」をかざるのはなぜ？
- 2-3) お正月に「おもち」を食べるのはなぜ？
- 2-4) 年賀状を書くのはなぜ？
- 2-5) 破魔矢・破魔弓ってなに？
- 2-6) 干支ってなに？
- 2-7) お正月に「凧」をあげるのはなぜ？
- 2-8) お正月に「お節料理」を食べるのはなぜ？
- 2-9) お正月に使う「おはし」の両側が細いのはなぜ？

3.コーナー2『こまを知ろう』

- 3-1) こまを知ろう
こまの歴史となぜお正月にこま遊びをするのかを紹介
- 3-2) 九州のこま
九州各地のこまの紹介
- 3-3) こまができるまで
こまの材料（木材）からこまになるまでの工程を紹介
- 3-4) ～3-6)こまをまわそう
こまの回し方と、こま回しの際の注意点など

4.孫次凧ができるまで

5.おわりに



主な展示品

自然史系では、しめ縄・しめ飾りとその原材料である藁（乾燥標本）、鏡餅とともに飾られるウラジロ（さく葉標本）・ユズリハ（さく葉標本）・ダイダイ、おせち料理に用いられるクルマエビ（液浸）、キビナゴ（液浸・加工品の佃煮）、ナガコンブ、正月用のはし、九州の代表的なこまとその原材料の木材（マテバシイ）などを展示した。

歴史系では、お年玉付き年賀はがきが誕生する前の北原白秋の年賀はがき 1 枚、裏は自身の版画となっている棟方志功の年賀はがき 1 枚、江戸時代の年始状 3 通、節用集といわれる江戸時代の百科事典である『大福節用』・『永代節用無尽蔵』各 1 冊などの古文書・和本、黒川勉氏が収集し当館に寄贈された黒川勉コレクションのうち十二支の土鈴 24 点、初正月に男の子に贈られた破魔弓・破魔矢飾り、女の子に贈られた羽子板などを展示した。

会期中は、常時こままわしができる体験コーナー（小学生以上用と幼児用の 2 種類）を設け、大変好評であった。小学生以上用のこままわしは、60 代以上の人たちは子どもの時、実際に遊んだということもあって容易に回せたようだ。ただ、それより若い世代の人たちは遊んだ経験がないようで、成人であっても回すのに苦戦しているようであった。

（守友 隆）



会場入り口



会場全体風景



こままわし土俵（小学生以上）



こままわし土俵（幼児用）



孫次胤ができるまで



九州のこま

(5) 絵本でたどるいのちのふしぎ かこさとし×いのちのたび博物館

期 間：令和7年3月15日（土）～令和7年5月6日（火・振）
53日間（次年度への継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 700 円（団体 560 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：26,603 人（全会期、令和7年3月31日までは9,878人）

担当学芸員：森 康・日比野友亮

主 催：北九州市立いのちのたび博物館

後 援：福岡県教育委員会

特別協力：毎日新聞社、九州朝日放送

協 力：加古総合研究所、福音館書店

概 要

国民的絵本作家かこさとし（加古里子）氏の科学絵本と、当館所蔵の標本約 200 点をあわせて展示し、身近な自然や生物の進化への関心と理解を深めてもらう特別展である。かこ氏の作品から、『かわ』、『海』、『地球』、『宇宙』、『人間』の連作を取り上げたほか、その延長線上に位置づけられる遺作『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』の複製を西日本初公開した。

展示の前半（『かわ』から『宇宙』まで）は自然の空間的な広がり、後半（『人間』および『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』）は生命の時間的な繋がりがテーマになっている。全体として、かこ氏が絵本に込めた「未来を生きる子どもたちに、その手がかりとなるこの世界の地図を手渡す」という想いを感じられるよう構成した。例えば、『人間』では第9場面「地球の生物の歴史」を幅約6メートルに拡大して床面に貼り、その上を歩いて生物の進化をたどる展示を行った。生前、かこ氏が展示会のたびに提案し、しかし一度も行われなかった企画が本展で実現した。

主な展示標本

1. オープンギャラリー：『ノラネコの研究』（伊澤雅子・文／平出衛・絵）などの科学絵本を、関連する標本とともに展示したほか、絵本を読めるコーナーや映像を使ったアイキャッチを設置した。
2. かこさとしさんの絵本：かこ氏の絵本デビュー作『だむのおじさんたち』をはじめ、福音館書店から出版された作品の原画 14 点（複製、全国初公開 3 点）のほか、かこ氏が使った筆記具 1 式（実物）、『ダムのおじさんたち』執筆のための資料 1 点（実物、全国初公開）を展示した。
3. 『かわ』：表紙を除く全 13 場面の原画（複製）を、アユやカワセミなどの標本とともに展示し、水辺の生き物や川にまつわる人々の暮らしについて解説した。全場面同時展示は全国 2 度目である。
4. 『海』：未使用の絵 1 点（実物）を展示したほか、登場するクロマグロやカツオなどの生き物の標本を展示した。また、貝殻を耳に当てて「海の音」を聞く体験コーナーを設置した。
5. 『地球』：下絵 6 点（実物、全国初公開 3 点）を、対応するページのパネルとともに展示して比較できるようにしたほか、関連する標本としてエベレスト山頂直下で採集された石灰岩などを展示した。
6. 『宇宙』：原画（複製）3 点を展示した。
7. 『人間』：原画 10 点（実物、全国初公開 1 点）を展示した。また、「世界最古の岩石」アカスタ片麻岩、ストロマトライト、古生代・中生代・新生代の動植物の化石、軟体動物や種子植物といった分類群を代表する動植物の標本を展示し、生物の進化をたどる体験型コーナーを設置した。



8. 『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』：ビッグバンから現在までの物質と生物の進化を描いた大作（幅約5メートル、高さ約1.5メートル）。かこ氏が約40年にわたり描き続けた遺作である。実物は移動や展示に耐えない状態のため、精緻な複製を展示した。

関連事業

関連イベントとして、北九州市消防音楽隊によるコンサートを含むナイトミュージアム（3月22日）、おはなしボランティアすぎのこによるおはなし会（3月27日、4月1日）、学芸員によるギャラリートーク（3月25日、4月3日）を行った。また、学芸員による体験イベントを不定期に行った。

（森 康）



かこさとしさんの科学絵本



『かわ』原画と水辺の生きものの標本



『海』に登場する生きものの標本



『地球』下絵と岩石などの標本



『人間』原画と化石や生物の標本



『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』

1 1. 企画展など

(1) 「藤井玉欄 北九州の日本画家」

期 間：令和6年4月6日（土）～6月9日（日）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：富岡優子

概 要

藤井玉欄（本名：關治、号：如々庵、田舎絵師）は明治5年（1872）11月27日に企救郡企救町徳力（現・北九州市小倉南区徳力）に、父市次郎、母フヨの長男として生まれた。藤井家は豪農で地元では一目置かれた家だったと思われる。叔父で詩人の藤井董一郎は玉欄の才能を見出し、日本画の大家・望月玉泉の私塾に入門させる後押しをした。玉欄は明治20年（1887）京都に行き、玉泉の私塾に入った。玉欄は明治24年（1891）、家業を継ぐために帰郷。以後の玉欄は明治33～39（1900～06）年まで小倉高等女学校の講師を務め、各地に画会を組織し、多くの弟子を育てた。無欲恬淡な人柄から地元の人々に愛され、人々のもとめに応じ多くの作品を残した、昭和22年（1947）6月30日に逝去した。

本展は北九州を中心に活動した日本画家・藤井玉欄の生涯とその画業について、館蔵資料および玉欄の子孫家、また玉欄の弟子である猪ヶ倉武雄家に所蔵されていた作品や資料を元に、彼の事績をたどるものであった。展示構成は以下のとおりである。

第1章 ふるさと徳力

第2章 帰郷後の玉欄

第3章 晩年の玉欄—猪ヶ倉雅邦堂のコレクション—

なお、展示の概要および展示資料目録を掲載した展示解説シート（A3判両面・モノクロ印刷）を作成し、配布した。本展の開催に伴い、藤井玉欄に関する情報や作品などを新たに収集することが出来た。

（富岡優子）



展示風景

(2) 「戸畑百年の軌跡」

期 間：令和6年6月22日（土）～9月16日（月・祝）

会 場：ぽけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野利信

概 要

現在の北九州市戸畑区は、明治22年（1889）に遠賀郡戸畑村と中原村が合併して村制を施行した戸畑村が、明治32年（1899）に町制を施行して戸畑町を経て、大正13年（1924）9月1日に市制を施行して誕生した戸畑市を前身としている。

北九州工業地帯の中心に位置する戸畑は、官営八幡製鐵所の開業や洞海湾の港の整備に伴い、明治時代後期から様々な企業や工場が開業した「工業のまち」、昭和初期に水産関連工場が集中的に立地した「水産のまち」として著しい発展を遂げた。明治42年（1909）に私立明治専門学校（九州工業大学の前身）が開校して、昭和49年（1974）に市立美術館が開館するなど「文教のまち」でもある。

本展では、旧戸畑市の市制施行百年の節目の年に、戸畑の地図や写真、版画作品などにより、昭和の初めと終わり、現在に至る戸畑の発展と街並み、暮らしの変化を振り返った。

展示内容は下記のとおり。

第1章 工業のまち・戸畑

第2章 水産のまち・戸畑

第3章 文教のまち・戸畑

展示資料は下記のとおり。

戸畑市鳥瞰図原図（吉田初三郎画、昭和8年作）

戸畑市新地図

明治紡績写真帖

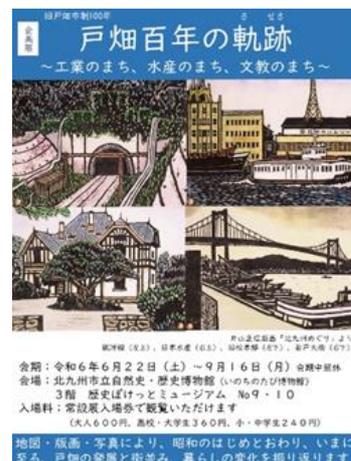
戸畑産業共進会写真帳・絵葉書

明治専門学校写真帖、本館写真、安川敬一郎日記第六号・第七号（明治専門学校関連）

片山正信版画「戸畑ちょっとむかし」27点（昭和初期の風景をえがく、平成元年頃作）

片山正信版画「北九州めぐり」より戸畑関係（昭和末の風景をえがく、昭和60年頃作）

市民提供写真のうち戸畑関連



歴史ぽけっとNo.9 展示風景



歴史ぽけっとNo.10 展示風景

(日比野利信)

(3) 「貫の歴史と文化財—真光寺大般若経とその周辺—」

期 間：令和6年9月21日（土）～11月24日（日）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：佐藤凌成

概 要

平安時代に唐を通じて伝来した大般若経は、除災招福、鎮護国家などの功德があるとされた全 600 巻の經典である。こうした功德が期待されて、日本への伝来当初から国家的法要として営まれた大般若経会（大般若経を用いた法要）は、地方へも伝播し、各地の寺院でも執り行われるようになった。

その一事例が小倉南区貫でも確認できる。同地域の貫山山頂には白山権現が祀られ、古来より貫山権現として信仰を集めていた。山麓の真光寺には、文安3年（1446）に貫山権現へ奉納された大般若経が伝存している。当館では、この大般若経の調査を進めており、新たな知見が得られている。

また、中世の貫地域の領主である貫氏や黒水氏についても、古文書や発掘調査から、その活動の様相が知られるようになっている。

本展覧会では、真光寺伝存の大般若経や古文書の調査および最新の発掘調査の成果を紹介して、地域の歴史と文化財を見つめ直す機会とした。

展示の構成は以下の通り。

第1章 貫の歴史と大般若経 (No.10)

第1節 古代の貫と人びとの営み 第2節 真光寺大般若経 第3節 小倉鋳物師の梵鐘

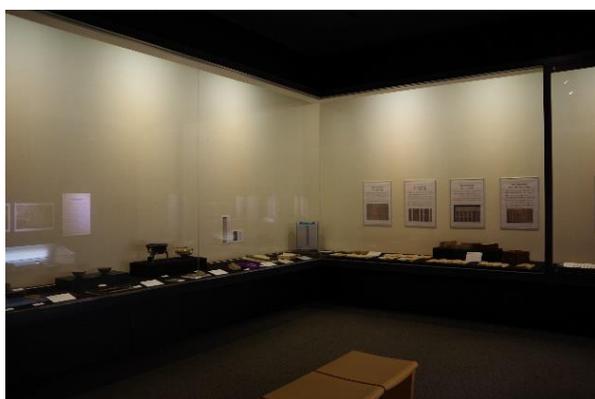
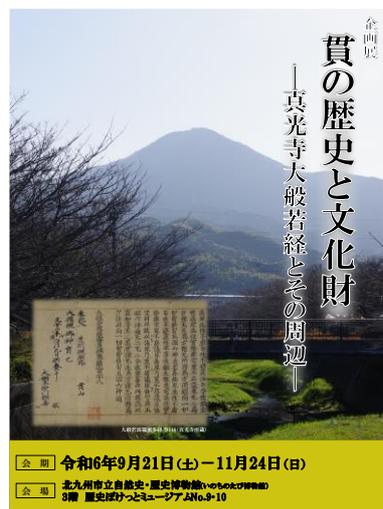
第2章 中世貫の領主—貫氏と黒水氏— (No.9)

第1節 貫氏 第2節 黒水氏

なお、展示の概要および展示資料目録を掲載した展示解説シート（A3判両面・モノクロ印刷）を作成し、配布した。また、本展示では古文書資料の積文（文字起こししたもの）は解説シート同様に配布する方法を採用した。

会期中にはギャラリートークを2度実施したほか、当館歴史友の会講演会および講演会参加者を対象としたギャラリートーク（9月）、貫地域の団体への展示案内（10月、2度）をおこなった。会期終了後にも、本企画展に関する講演を貫地域にて2度（12月）おこなった。

（佐藤凌成）



歴史ぼけっとNo.9展示風景



ギャラリートークの様子
(9月21日歴史友の会講演会終了後)

(4)「しらべる くらべる 地域の暮らしと道具のうつりかわり」

期 間：令和6年11月30日(土)～令和7年4月6日(日)

会 場：ぽけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西義昌

概 要

小学校3年生の社会科では、わたしたちのまちや人びとの暮らしのうつりかわりを調べ、考える学習を実施している。現在の北九州市は、北九州五市(門司・小倉・若松・八幡・戸畑)の都市の拡大と交通網の整備により四大工業地帯のひとつとして発展した。北九州市が誕生した昭和38年(1963)前後は、都市景観や人びとの暮らし、道具が大きく様変わりした時代でもあった。

本展では、当館の収蔵資料や市民提供写真を中心に、わたしたちの身近な地域や暮らしと、道具のうつりかわりを紹介し、校外学習で来館する子どもたちが資料をじっくり観察し、比べて、話し合い、考える機会を提供した。

展示内容は下記のとおり。

1 北九州市が誕生した頃の暮らし(1)〈食と住〉

- ① かまどからユニットキッチンへ ② 炊飯器(電気釜、ガス炊飯器)の登場、電化製品の広がり
- ③ メディアの発達

2 北九州市が誕生した頃の暮らし(2)〈市民提供写真から〉

3 北九州市が誕生した頃の暮らし(3)〈衣類の道具と暮らし〉

- ① 衣服の道具の発達 ② 洋裁とミシン

展示資料は下記のとおり。

かまど、七輪、火鉢、ガスコンロ

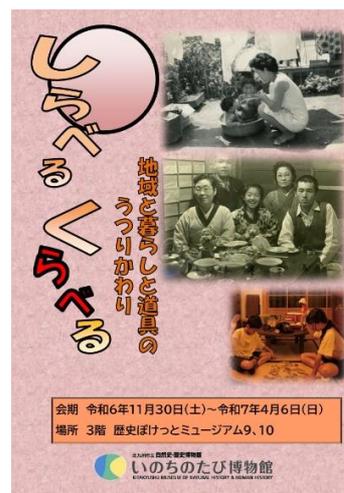
羽釜、電気釜、ガス炊飯器、トースター、ゆで卵器、ミキサー、ちゃぶ台・はいちょう、箱膳、飯籠、カンカン帽、扇風機、湯たんぽ、あんか、置きこたつ、灯油ストーブ、ダイニングテーブル、氷冷蔵庫、電気冷蔵庫、洗濯板、たらい

電話、白黒テレビ、カラーテレビ、計算機、電卓、真空管ラジオ、トランジスタラジオ、アンサンブルステレオ

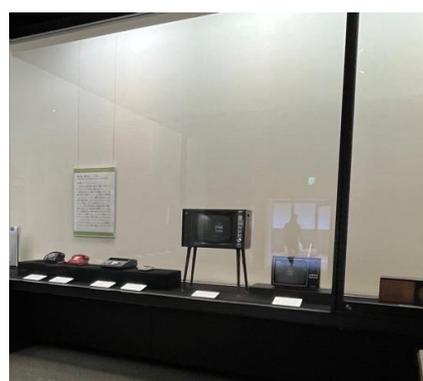
ひのし、湯のし、炭火アイロン、電気アイロン、コードレスアイロン

洋裁製図集『装苑作り方シリーズ』、子ども服、女性用ワンピース、足踏みミシン

(日比野利信)



展示風景



(5) ヒストリーアートギャラリー展示替え

公開日：令和6年4月12日、6月17日、8月22日、
10月25日、12月27日、2月28日

会場：カルチャーモール

担当学芸員：歴史課全員

概要

ヒストリーアートギャラリーは歴史ゾーンのカルチャーモールに令和5年度に新設された展示コーナーで、日本の美術工芸品や北九州の伝統工芸品など多彩な美を楽しんでいただくものである。定期的に展示品の一部を入れ替えており、令和6年度は7回展示替えをおこなった。とりわけ季節に応じた展示となるように心掛けた。



(6) 中世史展示替え

公開日：令和7年3月29日（土）

会場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」

担当学芸員：佐藤凌成

概要

資料保護の観点から、特に原資料については展示替えをおこなう必要があるが、新たに展示する資料については、北九州の武家と中央政権あるいは周辺大名との関係を伝える資料や、北九州の中世史を知る上で重要な出来事に関連する資料を選定して展示替えをおこなった。また、中世の北九州を取り巻く情勢を来館者にわかりやすく伝えることを目的に、令和3年度以降、順次解説パネルを追加してきた。本年度はこれらを改めて見直し、一部は新規パネルを追加することで、よりわかりやすく、かつ魅力的な展示の構築に努めた。



(佐藤凌成)

(7) 北九州市立山田緑地における鳥類研究紹介展示

期間：令和6年5月19日（日）～6月2日（日）

会場：北九州市立山田緑地 森の家 展示ホール

入場料：無料

担当学芸員：中原 亨

概要

北九州市立山田緑地にて、愛鳥週間にちなみ野鳥写真展が行われた。開催に際して鳥類研究紹介の展示依頼があり、山田緑地で捕獲した猛禽類ノスリの追跡研究、人工水場を利用した山田緑地の鳥類相に関する研究、および北九州市内で捕獲調査を実施したシロガシラの分布拡大に関する研究について、解説パネルを展示した。



(中原 亨)

(8) 新外来淡水魚類コウライオヤニラミに関する展示

期 間：令和6年6月26日（水）～9月16日（月）

会 場：博物館エントランス付近

入 場 料：無 料

担当学芸員：日比野友亮

概 要

コウライオヤニラミは朝鮮半島原産の肉食性淡水魚類であり、日本国内には本来分布しないが、宮崎県大淀川水系に侵入、定着している。当館、京都大学、タカラバイオ

（株）と共同で行った研究によって本種が急速に分布を拡大させていること、本種の個体数の増加が在来の魚類に負の影響を与えていることを強く示唆する結果が得られたことから、プレスリリースのタイミングに合わせて研究内容の解説と、コウライオヤニラミの危険性に関する展示を行った。コウライオヤニラミと類似するオヤニラミ（北九州市内にも自然分布）や、調査に用いた環境 DNA 調査道具の実物の展示を通して、生物多様性の重要性や最新の研究手法についても普及できた。

（日比野友亮）



(9) 東田イオン 出張展示

期 間：令和6年7月9日（火）～9月16日（月）

会 場：イオンモール八幡東店1階通路

入 場 料：無 料

担当学芸員：大橋智之・上野晶子・江頭幸士郎

概 要

イオンモール八幡東店にご協力いただき、今年度も当館

の PR 展示をイオンモール八幡東店1階通路で行った。ティラノサウルス頭骨レプリカの他、開催中の夏の特別展及び次回開催の秋の特別展の広報と周知のための紹介展示を設置した。また今年は「恐竜が眠る街・北九州」を紹介するパネルも展示した。

（大橋智之）



(10) スペース LABO 夏の企画展 出張展示

期 間：令和6年7月13日（土）～9月1日（日）

会 場：スペース LABO1 階企画展示室

入 場 料：スペース LABO 企画展入場料

担当学芸員：大橋智之

概 要

スペース LABO 夏の企画展「クレヨンしんちゃん バーチャルサイエンスランド」内に当館の恐竜標本展示コーナーを設置し、企画展内の恐竜コーナーの充実に協力した。シノサウロプテリクスなどの羽毛恐竜生体復元模型4体、スピノサウルス上顎レプリカ、メガロサウルス下顎レプリカの他、アースモールのティラノサウルス展示風景の実物大シートを掲示した。また「恐竜が眠る街・北九州」の PR パネル展示も行い、当館の広報及びスペース LABO との協力関係強化、スペース LABO 企画展来場者の知的好奇心の充足に寄与した。

（大橋智之）



(11) 小倉城内「いのちのたび博物館出張ミニ展示」

期 間：令和6年9月20日（金）～10月10日（木）

会 場：小倉城4階ギャラリー

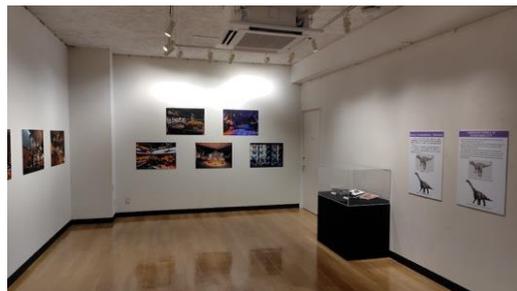
入 場 料：小倉城入場料

担当学芸員：大橋智之・宮元香織

概 要

小倉城4階ギャラリーで当館の広報を目的に出張ミニ展示を行った。北九州市内で発見された恐竜の実物化石2点（角竜類の歯、竜脚型類の頸椎）の特別展示とその解説の他、秋の特別展「お菓子のむかしばなし展」のPR展示、当館の恐竜などの展示風景写真パネルを多数展示した。また、当館までのアクセス方法の多言語紹介パネルと多言語リーフレットも設置し、小倉城に来城される海外からのお客様向けに当館の周知を行った。

（大橋智之）



(12) クリスマス展示

期 間：令和6年12月2日（月）～12月27日（月）

会 場：恐竜デッキ

入 場 料：無 料

担当学芸員：中西 希

概 要

クリスマスシーズンである12月に、プレゼントを配るサンタクロースが乗るそりを引くといわれるトナカイの剥製を展示した。LEDのクリスマスイルミネーションと雪に見立てた綿を設置し、雪の上を歩くトナカイを演出した。また、来館者は木製のそりに乗り、アースモールを背景に記念撮影ができるエリアとした。

（中西 希）

(13) 新種のハチ「サマルカンディキア・ハラダイ」特別展示

期 間：令和7年3月21日（金）～5月11日（日）

会 場：博物館エントランス

入 場 料：無 料

担当学芸員：蓑島悠介

概 要

当館が所蔵する山口県美祢市産の化石が、パリ自然史博物館・九州大学・ロシア科学アカデミー・ロンドン自然史博物館・美祢市歴史民俗資料館による共同研究の結果、新種の昆虫（ハチ）であることがわかった。本種は化石の発見者である原田隆好氏を称えて *Samarkandykia haradai*（サマルカンディキア・ハラダイ）と名付けられ、学術誌に掲載された。サマルカンディキア・ハラダイ実物化石は翅のみになるため、比較として現生のハバチ標本の展示も行った。特別展示初日には発見者の原田隆好氏と論文第一著者の大山望氏にお越しいただき、複数のメディアの取材を受けた。

本研究により、サマルカンディキア・ハラダイを含めた美祢層群のハチ類の多様性は世界でも2番目に高いことが明らかとなった。このことから、美祢層群のハバチ化石群がハチ目の進化を理解するうえで重要であることが分かった。

（蓑島悠介）



(14) キリンに関する「こどもかいせつ」パネル内の質問への回答パネル

期 間：常設展示に追加

会 場：アースモール新生代

担当学芸員：中西 希

概 要

アースモール新生代に常設展示しているキリン骨格標本の側には、「こどもかいせつ」パネルが設置されている。このパネルはクイズになっており、解答は固定型情報検索装置の解説に掲載されていたが、この検索装置の老朽化により令和5年度のリニューアル工事の際に撤去されたため、新規に解答パネルを作成し設置した。



(中西 希)

(15) 特別展「ネコ」にゃんと！クールなハンターたち：「世界の野生ネコ科展」 巡回報告

期 間：名古屋会場 令和5年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

大阪会場 令和6年7月13日(土)～9月23日(月・祝)

鳥取会場 令和6年10月5日(土)～11月10日(日)

会 場：名古屋市科学館、大阪市立自然史博物館、鳥取県立博物館

入 場 料：名古屋・大阪会場 大人1,800円、高・大生1,500円、小・中生700円、未就学児無料

鳥取会場 一般700円、大学生以下無料

観覧者数：名古屋会場83,943人、大阪会場90,134人、鳥取会場23,131人

担 当：伊澤雅子・中西 希

概 要

当館において令和5年春に開催した特別展「世界の野生ネコ科展」(会期：令和5年3月4日～5月7日)の内容に、イエネコに関する展示解説を追加し、特別展「ネコ」として名古屋、大阪、鳥取の3会場において巡回展示を行った。各会場となった科学館もしくは博物館と読売新聞社、各地のマスコミが主催し(鳥取は実行委員会形式)、伊澤館長と自然史課・中西が展示全体の監修として参加した。

超肉食獣として進化したネコ科について、起源と進化から獲物を効率良く狩るためのしなやかで力強い体の仕組みや、世界中の様々な環境に適応した40種(令和6年に新種記載論文が発表されたため大阪会場では41種)全てについて剥製、毛皮、骨格、画像を用いて紹介した。



また、国内に生息するイリオモテヤマネコとツシマヤマネコについては、フィールドでの研究方法を紹介し、それぞれの生息環境と食性の違いについて解説を行った。人と共に暮すことに適応したイエネコについては、エジプトで製作されたネコのミイラ（国立科学博物館所蔵）や壱岐で発見された日本最古のイエネコの骨格（壱岐市立一支国博物館）を展示し、家畜化の歴史について解説を行った。また、ペットとなったイエネコが変わらず維持している優れたハンターとしての身体能力について、イエネコと野生ネコ科の動作を対比させることによって実感できる映像を作製し紹介した。

（中西 希）



アフリカ大陸に生息するネコ科
（名古屋市科学館）



イエネコの巨大模型
（名古屋市科学館）



アジアに生息するネコ科
（大阪市立自然史博物館）



イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの
触れる毛皮（大阪市立自然史博物館）



イエネコの歴史と暮らし
（大阪市立自然史博物館）



マライヤマネコ剥製
（鳥取県立博物館所蔵）

12. 中核館としての重点事業

当博物館は西日本最大級の総合博物館であり、「文化観光推進拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）により認定を受けた地域計画に基づく、下記「北九州ミュージアムパーク創造事業」の「中核館」と位置づけられている。このような位置づけは、同事業に留まるものではなく、当館の独自の役割でもあり、いくつかの事業を重点的に行っている。

（1）北九州ミュージアムパーク創造事業—東田エリアを中核とする文化×産業×観光—

当館は同じ東田地区にあるスペース LABO やタカミヤ環境ミュージアム、市内の美術館などと相互に連携して、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、平成30年度から「東田ミュージアムパーク創造事業」を実施してきた。

令和2年度から上記の文化庁助成事業が「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」に切り替わったことに伴い、本事業も衣替えし、東田地区のミュージアムのほか市内の企業ミュージアムを構成施設として標記の事業を実施することとなった。旧事業から数えると7年目、新事業では5年目（最終年）となる令和6年度は、下記の事業を実施した。

1) 東田三館連携事業の実施

（ア）「子どもスクール」の開催（前期 5/11～9/28 後期 10/5～3/1）

東田エリアの特色を活かした体験活動などを行い、自然史・歴史・文化などについて、子どもたちの学びを広げ、深めていくことを目的に、近接する東田エリアのミュージアム等と連携して講座を実施した。

施設：いのちのたび博物館、スペース LABO、タカミヤ環境ミュージアム、KGG（北九州英語村）、安川みらい館

定員：24名×2期

対象：小学5年生～中学3年生



（イ）特別展「お菓子のむかしばなし展」の開催（10/12～12/8）詳細は18～19ページ参照

古代から近世までの日本の菓子の歴史について、砂糖との関わりに注目して迎える特別展を開催した。会期中、シュガーロード連絡協議会と連携し、「シュガーロードマルシェ」など各種集客イベントを実施することにより、3館の回遊性の向上及び東田地区のにぎわいづくりに寄与した。

2) 収蔵資料等（コレクション）デジタルアーカイブ事業

博物館の収蔵資料ならびに地域の歴史資源について、北九州市の足跡や変遷を示す近代資料を中心としてデジタルアーカイブを構築・公開するもの。令和6年度も引き続き博物館収蔵資料の写真撮影を行い、収蔵コレクションのデータベースを作成した。また、当館所蔵資料の情報を一部公開しているデータベースに、資料写真と解説文を追加した。

3) 博物館魅力磨き上げ（展示空間の進化）事業 詳細は 12～13 ページを参照

令和 3 年度に作成した展示等施設改修基本計画（令和 4～5 年）をもとに、令和 6 年度はぽけっとミュージアムNo.6 やリサーチゾーン、中世ゾーンの遣明船コーナーの一部のリニューアルを行った。

4) 博物館ホームページの全面改修

国内外の観光客が旅行の目的地を選ぶためのインターネット検索に対応するため、中核館である博物館ホームページを全面改修するとともに、ホームページ閲覧者に「この展示が見たい」「ここに行ってみたい」と思ってもらえるような魅力的なコンテンツを作成した。

（トップページ）



（外国語版ページ）



（2）来館者目線での館内環境等の整備について

北九州市では、令和 5 年度から、市政変革プランを策定し、次世代への投資などを行いつつ、行財政運営のあり方を再構築する「市政変革」の取り組みを進めてきた。

令和 6 年度からは、市役所各部局における市政変革の取り組みを報告・討議する「X 会議（市政変革会議）」を開催し、その中で、文化施設については、来館者目線での館内環境整備を進めることが、課題の一つとして取り上げられた。

このため、北九州市立自然史・歴史博物館として、館の一層の魅力を高めるため、来館者目線で館内案内表示等の更新や運営・機器の更新など、館内環境の整備を行った。令和 6 年度の主な取り組みは以下のとおり。

1) 館内掲示等の見直し、改善



ベビーカー無料貸し出しに関する表示の新設



出入口付近の古くなった掲示板の更新



展示室内の案内表示の改善



閉館前の入口案内看板の改善

2) 一般来館者から要望が多かった食事場所の設置や授乳室の調乳機の更新



団体専用の食事場所（休憩ルーム）を一般来館者にも開放



来館者の要望を受け調乳機を更新

3) 博物館ホームページの全面リニューアル

ホームページリニューアルの内容については 33～34 ページ参照

4) フォトウェディングなど博物館内での記念撮影を受け入れ

フォトウェディングなど人生の節目の記念としての記念撮影を受け入れた。
令和6年度実績：2件

(田平直幸)



(3) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。

今年度の幹事館は旅順博物館で、7月17日（水）に実務者会議を、11月19日（火）に館長会議を実施した。実務者会議においては、前年度実施したシンポジウム「東アジアの海港都市と島」について、仁川広域市立博物館から開催報告がおこなわれた。また、11月に予定しているシンポジウムについて、旅順博物館が趣旨説明と事前報告をおこなった。なお、次年度以降実施予定の教育普及プログラム「未成年教育」について、それぞれどのような内容でおこなうのか報告した。館長会議では、仁川広域市立博物館がシンポジウム「東アジアの海港都市と島」についての開催報告をおこなった。また、館長会議の場においても次年度実施予定の教育普及プログラムについて、具体的な内容提示をおこなった。

また、旅順博物館主催のシンポジウム「東アジアの海港都市と海神信仰」は館長会議終了後の午後、11月19日（火）に旅順博物館のホールでおこなわれ、旅順博物館と当館担当者が登壇し、発表した。シンポジウムは基調講演として大連芸術学校副校長・研究員の秦岭氏による「大連地区における海神信仰研究—海神娘娘を主として」があったのち、関連報告として旅順博物館宣教部副主任劉芳氏による「旅順天妃廟」、当館宮元による「北部九州における海神について」、仁川公式市立博物館学芸研究士金玟姫氏による「林慶業、崔瑩將軍から見た仁川西・南海岸地域の海洋信仰事例紹介」がおこなわれた。参加者は50名であった。これらについて『第3回東アジア友好博物館シンポジウム要旨集 東アジアの海港都市と海神信仰』を刊行し、日本各地の博物館・図書館等に配布した。

なお、本事業については、公益財団法人カメイ社会教育振興財団からの助成をいただいた。

(宮元香織)



実務者会議の様子



実務者会議参加者集合写真



館長会議参加者集合写真



シンポジウムの様子

(4) ナイトミュージアム

令和6年度はナイトミュージアムを6回開催した。

1) 特別展関連イベントとしてのナイトミュージアム (5回)

各回で異なる演出を行うことにより、リピーターの方も楽しむことができるなど、より多くの方にご来館いただけるよう工夫を行いながらナイトミュージアムを開催した。

内容等については以下のとおり。

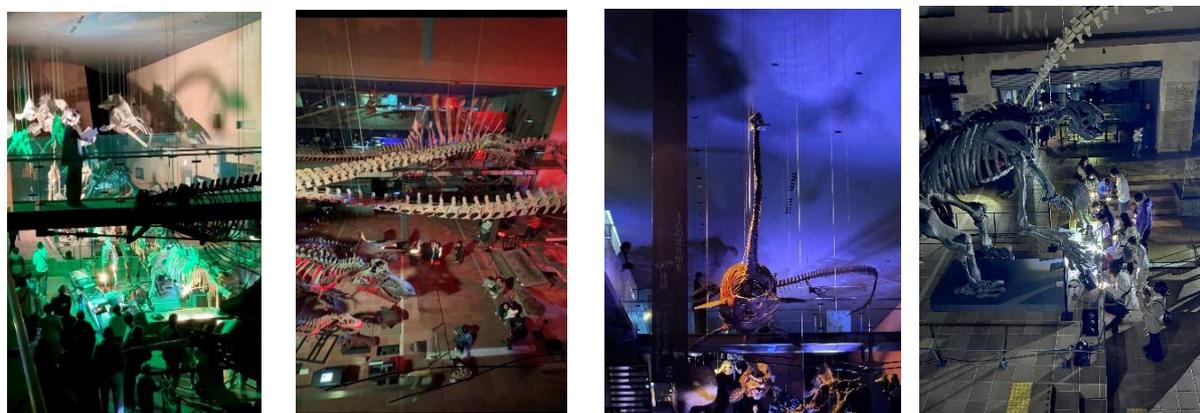
展覧会	開催日	内 容	人数
夏の特別展	7月26日(金)	アースモールで光と音楽の演出を実施。	579
	8月24日(土)	アースモールで光と音楽の演出を実施。	1,253
	9月7日(土)	館内を消灯し、来館者は懐中電灯等で館内を散策。光と音楽の演出なし。	746
秋の特別展	10月26日(土)	館内をハロウィンにちなんだ装飾を行うとともに、一部の来館者や職員も仮装を行った。アースモールで光と音楽の演出も実施。	469
春の特別展	3月22日(土)	消防音楽隊による生演奏に合わせ、光の演出を実施。	477
合 計			3,524



スピノサウルス [Courtesy of The University of Chicago]

2) J-COM との共催によるナイトミュージアムの開催 (1回)

3月29日(土)、J-COM 共催・ナショナルジオグラフィック (ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社) 協力で、アースモールとエンバイラマ館、生命の多様性館を会場としてナイトミュージアムを開催した。館内を消灯し、展示物を活用して子どもたちの探求心をくすぐるようなクイズラリーを実施したほか、生物の誕生から進化、人類の誕生に至るまでの「いのちのたび」を、アースモールの展示物にスポットライトを当てながら、MC がストーリーテリングを行った。参加者は184名。(定員200名)



(田平直幸)

1 3. 教育普及事業

(1) セカンドスクール事業

博物館が第2の学校(教室)として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、学校教育現場と博物館との連携強化を進めている。

1) 博物館への誘致事業

学校や修学旅行を手配する旅行会社へのPR・セールス活動
 小・中学校向けの情報誌を年間8回発行(幼・保育園は年1回)

2) 学校教育支援事業

ガイドブック、体験活動プログラム資料など博物館活用資料の整備
 化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくりなど体験学習プログラムの実施
 小学校への出前授業、ディスカバリーボックスの貸出など授業づくり支援
 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ、環境アクティブ・ラーニングの実施

3) 家庭教育支援事業

子どもスクール(前・後期 各11回の連続講座)や募集型講座の実施
 ワークショップイベント等への参加

【令和6年度 実績】

1) 博物館への誘致事業

誘致先	市内	長崎	佐賀	広島	沖縄	岡山	香川	その他	合計
訪問社数	23	13	11	10	9	5	5	47	123

※ 市内誘致先は、市内小学校。各県・その他は、旅行社

2) 学校教育支援事業(学校等団体)

団体	保・幼	小学校	中学校	高・大	特別支援	合計
団体数	225	512	82	43	49	911
人数	9,281	34,751	6,526	2,347	999	54,104

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
学校数	13	2	9	8	0	1	33
人数	583	65	503	416	0	29	1,596

授業	昔の道具調べ	土地のづくり	環境アクティブ・ラーニング	合計
学校数	22	22	34	78
人数	934	1,280	1,725	3,939

3) 家庭教育支援事業(一般団体:市民センター、学童保育クラブ、子ども会など)

○ 来館団体数: 508 団体 来館人数: 13,707 人

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
団体数	5	0	0	1	0	0	6
人数	120	0	0	15	0	0	135

講座名	回数	参加者数
子どもスクール	前・後期 各11回	前期: 24名(各24名×11回) 後期: 13名(各13名×11回)
普及講座	27講座	333人

4) 学校教育支援事業（支援実績）

① 教員研修

市内外の教員を対象とした研修

【実施日時】 令和6年7月24日（水）、26日（金）、31日（水）、8月2日（金）

9:00～17:15

【実施内容】 体験プログラム、館内見学、バックヤードツアー、KGG体験など

【実施結果】 35名（市内25名、市外10名）

○ 参加者の様子（感想より）

- ・ 内容がわかりやすく、学年とのつながりを意識しながら研修を進めることができた。
- ・ ギャラリートークでは展示物のことを詳しく教えていただいたり、ワークシート体験や体験プログラムでは実際に子どもたちの目線に立って体験を行ったり、学芸員の方の詳しいお話を伺ったり、普段見ることのないバックヤードを案内していただき、盛りだくさんの内容で、分かりやすかったです。



○ 所感（アンケート結果より）

- ・ 全体的に高評価である。特にバックヤードツアーやギャラリートークは、校種を超えた研修参加者にも好評で、社会見学を想定したり、キャリア教育等の視点をもって見学したりする方もおり、様々な面で学びにつながっていた。

② 未来へのとびらオンライン授業（中学校理科）等

〈市教育委員会の不登校児童・生徒を対象としたオンライン授業〉

【実施日時】 令和6年7月10日（水）9:00～11:10

【対 応】 自然史課学芸員1名 博物館職員2名 市教委5名

【実施内容】 アースモール～生命多様性館の展示解説

昆虫標本収蔵庫にある標本についての解説

【実施結果】 参加児童・生徒 38名

○ 参加者の様子（感想より）

- ・ 昆虫の進化のすごさやおもしろさを学ぶことができた。実際に「いのちのたび博物館」に行ってみたいと思った。
- ・ いろいろな虫について知ることができた。今度調べてみようと思う。



○ 所感

- ・ 多くの子どもたちが参加を続けてくれた。
- ・ 絶えずチャットに質問や意見・感想が送られてきて、児童生徒は興味深く意欲的に取り組んでいたようである。

〈市教育委員会の不登校児童・生徒を対象としたリアル社会科見学〉

【実施日時】 令和7年3月21日（金）12:30～15:00

【対 応】 博物館職員1名 市教委24名

【実施内容】 アースモール～生命多様性館の展示見学

【実施結果】 参加児童・生徒 19名

○ 参加者の様子（感想より）

- ・ 普段はオンライン上でしか交流のない生徒や先生方と直接会って、話すことができよかったです。
- ・ みんなと仲良くなれたし、いろんなことを学べて楽しかったです。オンラインと違ってたくさん話せたのが楽しかったです。
- ・ 一緒に見学しながらお話ししたり、思ったこと感じたことを共有したりして楽しかった。一緒にリアルで見学することで、さらに臨場感が味わえて、違う視点からでも見ることができた。参加して良かったです。

○ 所感

- ・ ほとんどの児童生徒が「また参加したい」と希望していることから、楽しく見学することができたようである。
- ・ 保護者のアンケートからも好意的な意見が多く、感謝のことばも多かった。今後も「未来へのとびらオンライン教育支援室」との連携を続けていきたい。

③ オンラインによる博物館のワンポイント利用（ちょこっと博物館）

※ 学校の授業において、オンラインのワンポイント展示紹介

【実施日時】 令和7年1月22日（水）、31日（金）

【対 象】 北九州市立永犬丸小学校3年3クラス 北九州市立祝町小学校3年1クラス

※各回交流時間 20～30分程度

【実施内容】 小学3年「昔の道具について」

企画展「調べる・くらべる、地域とくらしと道具のうつりかわり」

【実施風景】



○ 所感

- ・ 担任の進め方で利用時間等は大きく変わるので事前の打ち合わせをきちんと行う必要はあるが、教育効果は非常に高く、博物館への誘致効果も高い。

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を18回開催した。

種別	講座名	開催日	人数
野外観察会	化石と地質を楽しむジオハイキング	5月6日(月)	雨天中止
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	5月12日(日)	雨天中止
野外観察会	みんなで歩こう春の森	5月18日(土)	中止
室内講座	昆虫標本作製教室	6月1日(土)	20
室内講座	ヤドカリのひっこしを観察しよう	6月8日(土)	23
室内講座	顕微鏡で見る鉱物	6月9日(日)	13
室内講座	哺乳類の頭蓋骨を観察してみよう	6月29日(土)	11
室内講座	植物細密画を描いてみよう	7月7日(日)	17
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	7月20日(土)	8
夏休み教室	恐竜時代の大地！皿倉山ジオハイキング	7月28日(日)	11
室内講座	小さな化石にふれてみよう	8月25日(日)	19
野外観察会	大地の不思議を知る平尾台ジオハイキング	10月6日(日)	10
室内講座	いのちのたびの恐竜	10月19日(土)	31
室内講座	北九州のシロガシラはどこから来たのか	10月20日(日)	9
室内講座	植物細密画を描いてみよう	10月27日(日)	9
野外観察会	みんなで歩こう秋の森	11月16日(土)	4
室内講座	恐竜この1年	12月7日(土)	14
室内講座	食魚談義	12月8日(日)	9
室内講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう	12月15日(日)	11
室内講座	身近にいる？サンショウウオを探してみよう	1月26日(日)	4
野外観察会	恐竜化石を探してみよう	3月1日(土)	7
合計	21講座	18日	230

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化に関わる講座を実施し、理解に努めた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を15回行った。

種別	講座名	開催日	人数
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【長野城】	4月13日(土)	13
室内講座	古文書読み方講座(全12回)	4月24日(水) ～3月26日(水)	45
室内講座	小倉織入門教室	7月20日(土)	19
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【若松】	10月10日(土)	雨天中止
合計	4講座	14日	77

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で、自然学習園などにおいて、自然の恵みと人びとの歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう	7月30日(火)	14
いのたび自然塾	どんぐりと遊ぼう！食べよう！	11月2日(土)	12
合計	2講座	2日	26

4) 東田ミュージアムパーク子どもスクール

当館やスペース LABO、タカミヤ環境ミュージアムがある東田地区を中心に、その周辺にある KGG や安川電機みらい館で、それぞれの特色を生かした体験活動などを行い、自然や歴史、環境、ものづくりなどについて学習することを目的とする子ども（小5～中3）を対象とした前後期各11回の連続講座。そのうち当館は各4回の講座を担当し、基本的には、なるべく座学ではなく、専門家である学芸員とともに観察をしたり、体験活動を行ったりするように努めた。

〈前期〉 【参加人数】 24名（各24名×11回）

講座内容	担当学芸員	実施日
アンモナイトとオウムガイの観察	御前 明洋（自然史課）	5月11日（土）
LABOでフシギ体験&プラネタリウム鑑賞	スペースLABO	5月25日（土）
英語でサイエンス	KGG	6月8日（土）
顕微鏡で鉱物観察	森 康（自然史課）	6月22日（土）
コーヒーとSDGs	KGG	7月6日（土）
雨はなぜ降る？天気の仕事み実験	環境ミュージアム	7月20日（土）
手づくりモーター教室	安川電機みらい館	8月5日（月）
蓮から採れる糸	富岡 優子（歴史課）	8月17日（土）
風はなぜ吹く？風のでき方を知る実験	環境ミュージアム	8月31日（土）
風の力で進むホバークラフトを作ろう	スペースLABO	9月14日（土）
なく虫の観察	蓑島 悠介（自然史課）	9月28日（土）

〈後期〉 【参加人数】 13名（各13名×11回）

講座内容	担当学芸員	実施日
カエルやヘビたちのかたちのひみつ	江頭幸士郎（自然史課）	10月5日（土）
ハロウィンプログラム	KGG	10月19日（土）
LABOでフシギ体験&プラネタリウム鑑賞	スペースLABO	11月2日（土）
昔のくらしと布	上野 晶子（歴史課）	11月16日（土）
プラスチックごみについて考えよう	環境ミュージアム	11月30日（土）
クリスマスプログラム	KGG	12月14日（土）
手づくりモーター教室	安川電機みらい館	12月26日（木）
鳥の羽を見てみよう	中原 亨（自然史課）	1月25日（土）
金属をめっきしてアクセサリを作ろう	スペースLABO	2月8日（土）
いきものにもメッキがある？！ いきものの体の守り方	環境ミュージアム	2月22日（土）
化石レプリカづくり	池田 優（MT）	2月24日（土）

MT=ミュージアムティーチャー

5) 特別展の普及講座等

特別展に関連した講座・イベントとして下記を開催した。

展覧会	講座・イベント名	開催日	人数
夏の特別展	ナイトミュージアム	7月26日（金）	579
		8月24日（土）	1,253
		9月7日（土）	746
	さわってみようへび&カメ	7月14日（日）	40
		8月4日（日）	41
		8月18日（日）	32
秋の特別展	シンポジウム「古代の菓子を考える」	10月19日（土）	65
	ハロウィンナイトミュージアム	10月26日（土）	469
	講演会「江戸時代に花開いた菓子文化」	11月9日（土）	93

	ケーキの飾り「マジパン」作り	11月16日(土)	38
	お抹茶とお菓子で「おかしのはなし」	11月23日(土)	50
	学校団体への展示解説	10月18日(金)	225
	学校団体(3団体)からの依頼により実施	11月12日(火)	
春の特別展	ナイトミュージアム	3月22日(土)	477
合計			4,148人

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員養成過程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつを担当した。5日間と10日間を学生が選択。

1期：8月6日(火)～8月17日(土)、日曜・月曜休講の10日間

人数：15名(うち5名は5日間)

所属大学：北九州市立大学2名、京都大学1名、長岡造形大学1名、琉球大学3名、
北海道大学1名、広島大学1名、福岡大学3名、東京農業大学1名、宮崎大学1名

2期：8月27日(火)～9月7日(土)、日曜・月曜休講の10日間

人数：7名(うち3名は5日間)

所属大学：一橋大学1名、山口大学1名、筑紫女学園大学2名、福岡大学1名、
東京農業大学1名、西南学院大学1名、宮崎大学1名

2) 歴史課博物館実習

学芸員養成課程の学生を受け入れ、それぞれ学芸員が分担して指導をおこなった。

期間：令和6年8月20日(火)～8月24日(土) 5日間

人数：8名

所属大学：大阪芸術大学1名、北九州市立大学1名、九州産業大学1名、久留米大学1名、
西南学院大学2名、福岡大学1名、山口県立大学1名

(4) 職場体験・職員研修受け入れ

毎年、教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行っている。今年度はインターシップ4件、職場体験を2件の依頼を受けた。

<インターシップ①>

期 間 令和6年9月11日(水)～12日(木)

研修者 九州女子大学 2学年4名

内 容 自然史研修(貝類・甲殻類学)、MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)
交流員業務体験

<インターシップ②>

期間 令和6年10月30日(水)～31日(木)

研修者 若松高等学校 2学年2名

内容 歴史研修(美術工芸品の整理)、MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)
交流員業務体験

<インターンシップ③>

期間 令和6年11月25日(月)、26日(火)、28日(木)、29日(金)
研修者 大和青藍高等学校 2学年1名
内容 歴史研修(歴史企画展の展示替え)
自然史(古脊椎動物学)、MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)
交流員業務体験、清掃業務体験

<インターンシップ④>

期間 令和7年3月11日(火)～12日(水)
研修者 九州女子大学 2学年4名
内容 自然史研修(魚類学)、MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)、交流員業務体験

<職場体験①>

期間 令和6年8月1日(木)
研修者 西南女学院中学校・高等学校 中学部2学年4名
内容 MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)、交流員業務体験

<職場体験②>

期間 令和6年10月3日(木)～4日(金)
研修者 北九州市立枝光台中学校 1学年4名
内容 自然史研修(昆虫学)、MT業務研修(博物館概要、体験プログラム等)、交流員業務体験

(5) 外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学や市民センターなど社会教育機関ほか、外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行った。

1) 普及課

15件：九州大学、琉球大学、大学博物館協議会、大阪市立自然史博物館、京都市動物園、南大東村、北九州銀行協会、博物館経営論など博物館学、世界自然遺産、ネコ科、ダイトウオオコウモリ(館長)、九州産業大学、西南女学院短期大学、福岡県立小倉商業高等学校、北九州市立子ども図書館で、「未来の学芸員」育成プログラム、未来を切り拓く人材育成、認定絵本士向けの教育普及プログラム、石臼体験の講演等を行った。

2) 自然史課

30件：市内外の小中学校や高等学校、北九州市立大学、九州大学、広島大学、九州国際大学、九州産業大学、長崎国際大学、福岡女子大学、福岡大学のほか、北九州市山田緑地、天草市立御所浦恐竜の島博物館、宮崎県総合博物館、和歌山県立自然博物館、山口県岩国市、鹿児島県薩摩川内市などの地方公共団体や、帆柱自然公園愛護会、九州オープンユニバーシティ、白山手取川ジオパーク推進協議会などの団体の依頼を受け、自然科学や博物館学に関する講義、観察会、学術調査などを実施した。

3) 歴史課

17 件：市の新規採用職員研修、北九州市立大学、九州共立大学、北九州工業高等専門学校、北九州市年長者大学校（穴生学舎、周望学舎）、北九州観光市民大学、小倉郷土会、豪族貫氏の歴史研究会、福岡市史講演会、大分県博物館協議会研究協議会において、北九州市の歴史と文化、博物館経営論、地域の文化と歴史、長崎街道と「シュガーロード」、小倉織の歴史、トイレの考古学、お菓子の歴史、朝鮮通信使、小倉藩小笠原家の成立、北九州の戦国争乱、古写真に見る大正時代の暮らし、貫の歴史と文化財、筑豊炭坑家（安川敬一郎）、改正博物館法の施行と歴史系博物館の課題について、講演をおこなった。

(6) 団体・委員会への就任依頼

1) 普及課

伊澤雅子

- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議哺乳類分科会委員長（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会公園鳥獣部会委員長（福岡県環境部）
- ・福岡県特定外来生物防除対策検討委員（福岡県環境部）
- ・福岡県アライグマ防除対策協議会長（福岡県環境部）
- ・福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会委員

2) 自然史課

真鍋 徹

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議植物分科会委員（福岡県環境部）
- ・広谷湿原県設置施設管理方針検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・小石原川ダムモニタリング部部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタリング部部会委員クマタカ保全検討部会（水資源機構）
- ・筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会委員（水資源機構）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・西日本自然史系博物館ネットワーク理事（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

森 康

- ・日本鉱物学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

御前明洋

- ・日本古生物学会英文誌 Associate Editor（日本古生物学会）

大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会欧文誌編集幹事（日本古生物学会）

太田泰弘

- ・国指定天然記念物「東峰村の阿蘇4火砕流堆積物および埋没樹木」整備基本計画策定委員会委員（東峰村）
- ・日本地質学会代議員（日本地質学会・地方区）

- ・日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・日本地質学会西日本支部幹事（日本地質学会）
- ・令和6年度日本地質学会西日本支部総会・第175回例会担当幹事（日本地質学会）
- ・日本地質学会古生物部世話人（日本地質学会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

菘島悠介

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・第14期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
- ・中九州横断道路（大分～犬飼）環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・国道201号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・日本昆虫学会代議員（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本昆虫学会将来問題検討委員会（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会ホームページ担当幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会和文誌編集委員会委員（日本甲虫学会）

江頭幸士郎

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・環境省第5次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議爬虫類・両生類分科会委員長（福岡県環境部）
- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会委員（宇佐市教育委員会）
- ・国道201号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員会委員（日本爬虫両棲類学）
- ・日本爬虫両棲類学会標準和名委員会委員（日本爬虫両棲類学）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員・編集委員長（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・環境省第5次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議魚類・甲殻類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会優秀発表賞審査委員（日本魚類学会）
- ・2024魚類学会年会福岡大会実行委員（日本魚類学会）
- ・標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議鳥類分科会委員（福岡県環境部）

- ・ 苅田港長期構想検討委員会委員（福岡県県土整備部）
- ・ 久留米市環境保全専門委員（久留米市環境部）
- ・ 周南市ツル保護協議会 専門委員会委員（周南市文化スポーツ観光部）
- ・ 日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・ 日本鳥学会企画委員・委員長（日本鳥学会）
- ・ 日本鳥学会英文誌編集委員・副委員長（日本鳥学会）
- ・ 日本鳥学会代議員（日本鳥学会）

竹下文雄

- ・ 日本ベントス学会英文雑誌編集委員
- ・ 日本甲殻類学会英文誌編集委員
- ・ 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター学外協力研究員
- ・ 「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

中西 希

- ・ 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会委員（環境省）
- ・ 令和6年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・ イリオモテヤマネコ WG 委員（環境省）
- ・ 令和6年度沖縄県北部地域におけるマングース防除事業検討委員会委員（環境省）
- ・ 福岡県希少野生生物検討会議哺乳類分科会委員（福岡県環境部）
- ・ 令和6年度沖縄県北部地域マングース防除事業検討委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・ 令和6年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県自然保護課）
- ・ 西表島モニタリング評価委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・ 特別天然記念物カモシカ食害対策事業に係るカモシカ通常調査現地調査員（大分県教育委員会）
- ・ 第14期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市環境局）
- ・ 福岡市環境影響評価審査会委員（福岡市環境局）
- ・ 竹富町西表島エコツアーリズム推進協議会委員（竹富町）
- ・ 日本哺乳類学会英文誌編集委員会主任編集委員（日本哺乳類学会）
- ・ 日本哺乳類学会代議員（日本哺乳類学会）
- ・ 日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会 中・小型食肉目保護管理検討作業部会委員（日本哺乳類学会）

3) 歴史課

日比野利信

- ・ 田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員
- ・ 九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・ 飯塚市文化財保存活用推進委員会専門部会員（飯塚市教育委員会）
- ・ 佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・ 宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

富岡優子

- ・ 九州歴史資料館協議会委員（福岡県教育委員会）

中西義昌

- ・ 日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

1 4. ボランティア組織の活動

(1) シーダー組織の活動

1) 人数 (令和7年3月31日現在)

20代(1名) 30代(0名) 40代(0名) 50代(1名) 60代(7名)
70代(22名) 80代(11名) 90代(0名)

- ・令和6年8月に第10期シーダーを募集(25名の新規シーダー候補を登録)
- ・年度末の登録更新により、シーダー継続者は27名(登録終了者は15名)
※令和7年度は、新規シーダーを含め、52名のシーダーで活動を行う

2) 各グループの活動内容

<展示案内グループ>

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

<講座補助グループ>

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子どもスクールおよびMTが行う授業(環境アクティブラーニング、昔の道具調べ)の補助を行う。

<演示グループ>

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、恐竜や九州の民話をテーマとした「紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

3) 活動実績

<展示案内> 展示解説・案内

- ・個人や団体(公共施設)に対して博物館展示物の解説を行った。
- ・毎月行うグループ会議や自主学習会を通して、活動の成果や課題等について共通理解を図った。

<講座補助> 講座中の支援・補助、石臼の演示

- ・講座の準備や片付けの支援により、次の活動への回転がスムーズに行われた。
- ・全ての石臼体験にシーダーが関わり、小学3年生の社会科学習を支援した。
- ・館外でのイベント(子ども図書館)で石臼体験を実施した。

<演示> 紙芝居の演示、折り紙の演示、季節の飾りつけ

- ・特に、恐竜の折り紙等は、子どもたちに人気があった。毎週土曜日を中心に実施。
- ・小倉織の実演や体験は、様々な年代への興味・関心を高めた。
- ・定期的な子どもミュージアムの飾りつけが効果的であった。

4) 研修

- ・シーダー全員を対象とした「シーダーゼミ」を全11回(19講座)実施。
- ・シーダーバス研修で九州国立博物館を視察(展示物見学、バックヤード見学、交流会)

5) ボランティア交流会

- ・令和7年1月25日(土) 下関市立海響館ボランティア「あくあは一つ」(当館)
- ・令和7年2月19日(水) 九州国立博物館ボランティア館内案内「日本語」(九州国立博物館)

(2) 資料整理補助グループ

(2-1) 植物さく葉標本整理補助グループ

1) 登録人数 (令和7年3月31日現在)

6名

2) 活動内容

植物さく葉標本の台紙への貼付および標本情報の転記等。

なお、収蔵庫の空調設備の不調のため、令和6年9月から令和7年3月までの活動は休止した。

3) 活動実績

延べ日数 22日

整理標本点数 812点

(2-2) 現生脊椎動物標本整理補助グループ

1) 登録人数 (令和7年3月31日現在)

6名

2) 活動内容

現生鳥類冷凍標本の仮剥製化等。

3) 活動実績

延べ日数 9日

整理標本点数 10点

(2-3) 小倉織復元補助ボランティア

1) 登録人数 (令和7年3月31日現在)

14名

2) 活動実績

延べ日数 3日

松江市所蔵「小倉織縞手本」復元のための打ち合わせおよび染織の準備を行った。

15. 博物館友の会の活動

(1) 自然史友の会の活動

1) 組織概要

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

566名（令和7年3月31日現在、以下同）

役員等

会長：佐藤政弘、副会長：新海義治・島添恒太、幹事長：黒河雅文、事業担当幹事10名、出版担当幹事8名、庶務会計担当幹事2名、会計監査2名、評議員24名、顧問13名

年会費

正会員：大人4,000円、小・中・高生2,000円、家族5,000円。賛助会員：11,000円

2) 活動内容

① 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー20～30ページ前後）

第160号（令和6年8月28日発行）：「九州大学生物多様性ゾーンで得られたチョウ」等5件の報告と研究発表会要旨集

第161号（令和7年2月20日発行）：「北九州市で採集されたキオビセセリモドキ」等7件の報告

② 研究部会の活動：例会の実施（計42回）

地質鉱物（9回）、化石（3回）、植物（6回）、昆虫（5回）、水生動物（5回）、両生・爬虫類（11回）、鳥類（3回）

③ 友の会野外観察会の実施

令和6年10月13日（日）狩尾岬にて。参加者35名。

④ 博物館との共催の野外観察会の実施

夏休み教室を1回実施。

⑤ 博物館主催講座への協力活動の実施

普及講座への協力を2回実施。

⑥ 市民向け室内講座の実施

「植物細密画を描いてみよう！」

第1回 7月7日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者17名。

第2回 10月27日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者9名。

⑦ 会員向け室内講座の実施

9月8日（日）13:00～15:00、博物館講座室にて。参加者20名。

⑧ 研究発表会の実施

5月19日（日）実施。「平尾台、広谷湿原の自然環境研究と保全の現状」等7件の発表。

⑨ 会議等の実施

総会（1回）、評議員会（1回）、三役・各担当幹事会代表会（2回）、出版担当幹事会（2回；メール会議を除く）、事業担当幹事会（4回）、庶務会計担当幹事会（1回）、あり方委員会（4回）。

(2) 歴史友の会

1) 組織概要

目的：本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、歴史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数：131名（令和7年3月31日現在）

役員等：会長 永尾正剛、副会長 渡辺善夫・福浦高利

年会費：正会員 5,000円 賛助会員 10,000円以上 臨時会員 実費（資料代）800円

2) 活動内容

① 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー4ページ、年3回）

② 講演会 年12回開催 参加者総計965名

開催日（土）	演題	講師（敬称略・所属は当時）	人数
4月20日	古墳時代の葬送儀礼と親族関係	九州大学競争学部准教授 舟橋京子	95
5月11日	北九州市内に発掘成果報告	北九州市埋蔵文化財調査室長 中村利至久	62
6月8日	小倉昭和館と「映画の街・北九州」	小倉昭和館館主 樋口智巳	57
7月6日	世界史の中の戦国大名	名古屋学院大学国際文化学部教授 鹿毛敏夫	82
8月24日	地獄へのいざない	出光美術館 立島敦子	81
9月21日	小倉南区貫の歴史と文化財 —真光寺大般若経とその周辺—	北九州市立自然史・歴史博物館 佐藤凌成	74
10月19日	特別展「お菓子のむかしばなし」関連講演会 シンポジウム 古代の菓子を考える	奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センター協力研究員 前川佳代ほか	65
11月9日	特別展「お菓子のむかしばなし」関連講演会 江戸時代に花開いた菓子文化	株式会社虎屋虎屋文庫上席研究員 森田 環	93
12月14日	浮世絵の歴史と魅力	福岡市美術館総館長 中山喜一郎	80
1月18日	洞海湾の船上生活者について —オーラルヒストリーからのアプローチ—	神奈川大学名誉教授 田上 繁	88
2月8日	越境する出雲学—北部九州との関係に注目して	福岡県立大学人間社会学部教授 岡本雅享	77
3月8日	九州の古墳—その特色と歴史研究—	九州歴史資料館 小嶋 篤	111

③ 史跡見学会 年5回開催 参加者総計96名

日時	場所	人数
5月25日（土）～5月26日（日）	天草方面史跡見学会「二つの世界遺産を巡る」（定員に達せず中止）	中止
9月27日（金）～9月29日（日）	関西・宇治方面史跡見学会「「光る君へ」石山・宇治を訪ねて」	25
11月16日（木）	史跡めぐりバスハイク 吉野ヶ里遺跡「吉野ヶ里遺跡と肥前国府」	33
2月8日（木）	史跡めぐりバスハイク 「この春福岡で話題の特別展をめぐる！」	38

④ 学芸員と行く文化財ガイドツアー 年2回開催 参加者総計53名

日時	名称	ガイド	人数
4月25日（木）	若松駅と洋館付加住宅を歩く	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 中西 義昌	26
10月24日（木）	ザ・バックヤード探訪 埋蔵文化財調査室	北九州市埋蔵文化財調査室長 中村 利至久 北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 宮元香織	27

16. 資料の収集保管状況

(1) 自然史課

1) 令和6年度資料登録状況

令和6年度の自然史資料の登録（デジタルデータベース化）数は以下のとおりである。

分野	購入		委託製作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計			
	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点		
生物系	脊椎動物	VR	2	2	0	0	137	138	0	0	214	214	0	0	10	10	363	364
	無脊椎動物	IvR	0	0	0	0	1	2	0	0	6	171	0	0	0	0	7	173
	昆虫	IR	0	0	0	0	181	181	0	0	22	22	0	0	0	0	203	203
	種子植物	GR	27	34	0	0	352	356	0	0	0	0	0	0	0	0	379	390
	シダ植物	AR	0	0	0	0	54	57	0	0	0	0	0	0	0	0	54	57
	コケ植物	BR	0	0	0	0	69	69	0	0	0	0	0	0	0	0	69	69
	菌類	FR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	OR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<小計>			29	36	0	0	794	803	0	0	242	407	0	0	0	0	1,075	1,256
地学系	脊椎動物	VP	0	0	0	0	7	12	0	0	1	1	0	0	0	0	8	13
	無脊椎動物	IvP	1	1	0	0	54	54	0	0	0	0	0	0	0	0	55	55
	昆虫	IP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	種子植物	GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	シダ植物	AP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コケ植物	BP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菌類	FP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	OP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩石	L	0	0	0	0	513	560	0	0	0	0	0	0	0	0	513	560	
鉱物	M	0	0	0	0	1,505	1,727	0	0	0	0	0	0	0	0	1,505	1,727	
<小計>			1	1	0	0	2,079	2,353	0	0	1	1	0	0	0	0	2,081	2,355
他	その他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			30	37	0	0	2,873	3,156	0	0	243	408	0	0	10	10	3,156	3,611

2) 令和6年度資料収集状況

令和6年度の自然史資料の収集点数および主な収集資料は以下のとおりである。

分野	購入	委託製作	寄贈	寄託	採集	交換	その他	合計		
生物系	哺乳類	VR	0	2	69	0	6	0	79	156
	鳥類		2	5	35	0	7	0	0	49
	爬虫類		0	0	35	0	102	0	6	143
	両生類		0	1	2	0	40	0	3	46
	魚類		0	4	62	0	162	0	0	228
	無脊椎動物	IvR	0	0	2	0	171	0	0	173
	昆虫	IR	0	0	530	0	2,269	0	0	2,799
	種子植物	GR	0	0	121	0	0	0	0	121
	シダ植物	AR	0	0	71	0	0	0	0	71
	コケ植物	BR	0	0	139	0	0	0	0	139
	菌類	FR	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	OR	0	0	0	0	0	0	0	0
<小計>			2	12	1,066	0	2,757	0	88	3,925
地学系	脊椎動物	VP	0	0	12	0	1	0	0	13
	無脊椎動物	IvP	1	0	11	0	0	0	0	12
	昆虫	IP	0	0	0	0	0	0	0	0
	種子植物	GP	0	0	119	0	0	0	0	119
	シダ植物	AP	0	0	0	0	0	0	0	0
	コケ植物	BP	0	0	0	0	0	0	0	0
	菌類	FP	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	OP	0	0	0	0	0	0	0	0
岩石	L	0	0	1,000	0	0	0	0	1,000	
鉱物	M	0	0	200	0	0	0	0	200	
<小計>			1	0	1,342	0	1	0	0	1,344
他	その他	—	0	0	17	0	0	0	0	17
計			3	12	2,425	0	2,758	0	88	5,286

<主な購入・委託製作資料>

- ・トドほか、交連骨格（3点）
- ・タンチョウほか、鳥類剥製（7点）
- ・キアンコウほか、魚類剥製（4点）
- ・アンモナイトの糞と考えられる生痕化石（1点）

<主な寄贈資料>

鱗翅目 10種のホロタイプ標本

ナギサミズカメムシのホロタイプ標本およびパラタイプ標本

トゲナナフシの雄個体

アカスタ片麻岩（世界最古の岩石）ほか岩石鉱物、約 1,200 点

<主な採集資料>

九州・沖縄産昆虫標本（約 2,200 点）

<その他>

過去に受け入れた資料から、ホロタイプ標本（昆虫化石 1 点）を登録した。

（2）歴史課

1) 令和 6 年度資料登録状況（デジタルデータベース化状況）

歴史系の収蔵資料については、出所ごとの資料群台帳を作成し、1 点ごとの詳細目録など各資料群に関わる諸データを紐付けしながら管理を図っている。また「北九州ミュージアムパーク創造事業」（33 ページ参照）の一環として、博物館資料等のデジタルアーカイブの構築を進めていくなかで、IB Museum SaaS を用い、収蔵資料 1 点ごとのデータを登録して、博物館のホームページから検索ができるシステムの構築を開始し、令和 6 年度は 1,290 件の登録をおこなった。今後は毎年度の目標値を定めて、登録数を確実に増やしていく。

2) 令和 6 年度資料収集状況

令和 6 年度の歴史資料の受入点数は以下のとおりである。

系 統	令和5年度末累計	寄贈	新規寄託	購入	合計	令和6年度末累計
歴史系	35,261	3,523	0	23	3,546	38,807
考古系	51,954	282	0	0	282	52,236
計	87,215	3,805	0	23	3,828	91,043

3) 令和 6 年度収集資料の概要

（寄贈資料）

令和 6 年度の寄贈資料は次のとおりである（50 音順）。

資料群名	資料の内容	系統	員数
安倍家資料	硯（蓋裏書「赤間関」）	歴史系	1
小田家資料	家電（ラジオ、自動トースターなど）、漆器類（椀、重箱など）、書籍（『写真通信』、『国史画帖』）	歴史系	91
加藤家資料	蚊帳（大・小）、風呂敷、袖なし、単衣着物、羽織	歴史系	6
妹尾家資料	小倉市議会議長・妹尾万次郎関係資料（備忘録、日記帳、発翰控、肖像写真など）	歴史系	41
田代家資料	上野焼の飴釉徳利、大日本国防婦人会鞆	歴史系	3
戸畑高等学校資料	名護屋岬古墳群出土鉄器類、山鹿貝塚出土縄文土器ほか	考古系	282
中山家資料	羽子板、藁馬	歴史系	3
原田家資料（鶴屋資料）	鶴屋関係資料（菓子木型、菓子サンプル、焼印などの製菓道具、賞状・盾、菓子器・茶器・硯箱などの調度品）	歴史系	2,578
藤本家資料	貝原益軒書「時敏」扁額	歴史系	1
古野家資料	昭和の玩具（カード、メンコ、キン肉マン消しゴム）、洋服ほか	歴史系	671
前田家資料	小倉新田藩士・前田家文書	歴史系	79
山尾家資料	家電製品（攪拌式洗濯機、電話音声応答装置など）	歴史系	6
山下家資料	生活道具（扇風機、手芸関係道具、衣類など） 玩具類（スーパーファミコン、チョコQなど）	歴史系	36
大和家資料	小倉縮、小倉織（小倉高校制服・制帽）、パチンコ	歴史系	7

（購入資料）

- ・貫藤次郎宛 大友義鎮官途書出 1点
豊後国を本拠とする戦国大名・大友義鎮（宗麟）が豊前国規矩郡貫荘（現在の北九州市小倉南区貫）を本貫地とする国人・貫藤次郎に対して、忠右衛門尉を与えた官途書出。貫氏が一時的にせよ大友氏に従ったことがわかる。
- ・吉田縫殿助宛 細川光尚書状 1点
細川小倉藩2代藩主・細川忠利が寛永9年（1632）に熊本藩主に転じて間もない時期、忠利の長男の細川光尚（六丸）が江戸での居所を移した際、旧領の小倉町人が祝儀として青銅300疋を贈ったことについて、家臣の吉田縫殿助に「満足」と述べた書状。転封後間もないとはいえ、旧領主と旧領民、細川家と小倉城下町の間を考えるうえで興味深いものである。
- ・藤井玉欄筆 書画作品 21点
明治～昭和時代に小倉を中心に活動した日本画家・藤井玉欄の作品群。玉欄の弟子であった猪ヶ倉武雄が所持していたもの。伝来が確かで、数量もまとまっていることに加え、墨蹟や仏画などもあり、玉欄の多様な作品や活動を知ることができる。

17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

当館には、「外部の研究員の受け入れに関する要綱」に基づき、所蔵する資料などの研究を希望する外部研究者を受託研究員として受け入れる制度（以下、受託研究員制度とする。）が存在する。また、研究や教育普及のため、当館が所蔵する資料の研究などを館内において実施する制度（以下、特別観覧制度とする。）が存在する。

（1）自然史課

1) 受託研究員制度による資料の利用状況

令和6年度は、本制度によって、2名の外部研究者が当館所蔵の標本の研究などを実施した。

2) 特別観覧制度に基づく資料利用

令和6年度の特別観覧制度による資料の利用状況は以下のとおりである。

- ・生物系資料観覧：27件、31人
- ・地学系資料観覧：6件、10人
- ・その他の資料観覧：1件、2人

（2）歴史課

1) 受託研究員制度による資料の利用状況

令和6年度は、本制度によって、当市の学芸員1名が受託研究員となり、科学研究費による研究を実施した。

2) 特別観覧制度に基づく資料利用

令和6年度の特別観覧制度による資料の利用状況は以下のとおりである。

- ・歴史系資料観覧：14件、51人
- ・考古系資料観覧：7件、12人

18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

(1) 自然史課

1) 研究目的での資料の貸出状況

令和6年度の研究目的での資料の貸出状況は以下のとおりである。

生物系資料貸出：14件、1,148点 地学系資料貸出：3件、16点

上記以外に魚類の標本データの利用依頼1件にも対応した。

2) 教育普及目的のための貸出

	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	ショニサウルス頭骨レプリカ	1	福井県立恐竜博物館	特別展「巨大恐竜展 2024」での展示	R6.6～R6.9
2	コアラ剥製	1	名古屋市科学館	巡回展「毒」での展示	R6.6.25～R6.9
3	ネコ科等剥製 55点、毛皮 8点、骨格標本 57点、骨格レプリカ 11点、液浸標本 16点、昆虫標本 3点、模型 1点、乾燥標本 1点	152	大阪市立自然史博物館	特別展「ネコ～にゃんと！クールなハンターたち～での展示	R6.6.26～R6.9.27
4	クテナカスマ、ソルデス、ケッアルコアトルス、チェージャンゴブテリス、ニホンキクガシラコウモリ、ムササビ（骨格および剥製）、クビワオオコウモリ、コキクガシラコウモリ、アメリカモモンガ、トビ	11	ベネックス恐竜博物館	企画展「翼竜と恐竜、そして飛行機まで～大空へのチャレンジ」での展示	R6.7.12～R6.9
5	アオウミガメ幼体液浸標本 1点、オサガメ頭骨 1点	2	西海国立公園九十九島水族館	特別展「世界のカメラ展～かわいイカメラたち大集合！～」での展示	R6.7.6～R6.9.30
6	ブラジル産魚類化石 16点、珍珠盆地産魚類化石・コンクリーション 8点、北海道産アンモナイト 22点、和歌山県産アンモナイト 4点	50	宮崎県総合博物館	特別展「化石タイムカプセル」での展示	R6.9.10～R6.12.15
7	ネコ科等剥製 55点、毛皮 8点、骨格標本 57点、骨格レプリカ 11点、液浸標本 16点、昆虫標本 3点、模型 1点、乾燥標本 1点	152	鳥取県立博物館	特別展「ネコ～にゃんと！クールなハンターたち～での展示	R6.9.28～R6.11.30
8	コアラ剥製	1	福岡市科学館	巡回展「毒」での展示	R6.10～R7.1
9	アライグマ剥製	1	産業経済局鳥獣被害対策課	農林水産まつりでのアライグマ被害啓発目的の展示	R6.11.15～R6.11.16
10	哺乳類頭骨（イエネコ 8点、イヌ・カイウサギ・アナグマ・タヌキ・キツネ・ホンドテン・ニホンジカ・イノシシ各 1点）	9	大野城市立大野城小学校（担当：大山教諭）	小学校 4年生の理科の授業「わたしたちの体と運動」での使用	R6.11.9～R6.12.15
11	キジ本剥製	1	平尾台自然観察センター	常設展示室での展示	R6.12.1～R10.3.31
12	ライオン剥製（オス、メス）、リヤマ剥製、ヒツジ剥製、チリーフランゴ剥製、コアホドリ剥製各 1点	6	島根県立三瓶自然館	特別展「はたため生きもの～国旗に描かれた動物～」での展示	R7.2.10～R7.6.30
13	齧歯類剥製 8点（アカネズミ、ヒメネズミ、ハツカネズミ、クマネズミ、ラット、ニホンリス、カビバラ、ヤマアラシ）、カビバラ頭骨 1点	9	北九州市はたる館	ネズミに関する企画展での展示	

(2) 歴史課

1) 研究目的での資料の貸出状況

なし

2) 教育普及目的のための貸出

	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出日
1	牧山古墳出土 平瓶	1	戸畑郷土史会	戸畑図書館 1階郷土資料室における展示	R6.4.1～R7.3.31
2	銅矛（冷水遺跡出土）2点、重留遺跡出土銅矛レプリカ 1点、須恵器（天観寺窯跡群出土）18点	21	北九州市立埋蔵文化財センター	北九州市立埋蔵文化財センターの常設展示	R6.5.1～R7.3.31
3	岩戸山古墳出土 須恵器器台 2点	2	九州歴史資料館	令和6年度特別展「筑紫君一族史」における展示	R6.10.3～R6.12.27
4	立屋敷遺跡出土土壺形土器 1点	1	九州歴史資料館	企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」における展示	R6.12.5～R7.3.25
5	磨製石包丁（貫川遺跡）1点 孔列土器（貫川遺跡）2点	3	独立行政法人国立科学博物館館長 篠田謙一	特別展「古代 DNA—日本人のきた道—」における展示	R7.3.4～R7.9 予定
6	糸車 1点、綿繰機 1点	2	北九州市立小倉城庭園館長 中川康文	常設展示「小倉織—歴史と伝統」における展示	R7.4.1～R8.3.31

19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

(1) 自然史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	二枚貝が付着したブラビトセラス	3	藤本淳子	書籍『古生物のカルテ』（技術評論社）への掲載	R6.4.3
2	カンボデルシエロ隕石	1	株式会社ニュートンプレス	雑誌別冊「周期表完全図解118元素辞典」（ニュートンプレス）改訂版への掲載	R6.5.31
3	アオバアリガタハネカクシ	1	関西テレビ	番組「旬感LIVEとれたてっ！」での使用	R6.6.7
4	ウシマンボウ	1	下関市立しものせき水族館	企画展「真・マンボウ展～マンボウに感動～」での使用	R6.6.9
5	プテラノドン	1	みっとめるへん社	書籍「えいごがきける たのしいきょうりゅうずかん」（ナツメ社）への掲載	R6.6.24
6	アドクス・センゴクエンシス（資料画像、復元図）	1	飯塚市歴史資料館	企画展「実はすごい！筑豊の化石展」での使用	R6.7.8
7	プテラノドン、クリオロフォサウルス、ギガノトサウルス	3	スリーシーズン	書籍「こどもずかん きょうりゅう555」（Gakken）への掲載	R6.7.17
8	北九州未来創造芸術祭「現世界の遠近法」用の作品として落合陽一氏が撮影した画像（液浸標本、自然の身体など）	18	ジセカイ株式会社	落合陽一公式サイトへの掲載	R6.7.25
9	テイオウゼミ	1	有限会社ハユマ	書籍「理科ブレデスト 2024 年度版（小学校3年生用）」（青葉出版）への掲載	R6.7.26
10	平成3年発見の角竜類恐竜復元図	1	世良俊明（北九州市議会議員）	32年にわたる市議活動のまとめの冊子への掲載	R6.8.23
11	ティタノサウルス型類恐竜復元図、角竜類恐竜復元図、プロトプレウム類鳥類復元図、学芸員の調査活動写真	4	テレビ西日本報道局	番組「報道ワイド 記者のチカラ」での使用	R6.8.29
12	マチカネワニ全身骨格レプリカ	1	宇佐市教育委員会	企画展「はるかむかしの宇佐のいきもの」での使用	R6.9.4
13	当館展示風景	10	電脳蛇類	雑誌「蛇と人」（電脳蛇類）への掲載	R6.10.10
14	フズリナ、館内海中ジオラマ、ナウマンゾウ化石レプリカ	3	乃村工藝社	平尾台自然観察センターでの展示およびウェブサイトでの使用	R6.10.14
15	シーラカンス化石（マウソニア・ブラジリエンス、アクセロディクチス、パルナイバイア、ウンディナ、ワイティア・ウッドワーディ、ワイティア属の一種、ワイティア・オオイシ、アクセロディクチス、アレニプテルス、ミグアシャイア）	10	NHK エンタープライズ	番組「NHK スペシャル ワイルドライフ」での使用	R6.10.30
16	ナウマンゾウ骨格	1	アフロ	書籍「中学教科書ワーク理科1年」（文理社）への掲載	R6.10.31
17	ワキノサトウリュウ化石、北九州市産角竜類歯化石	2	東京大学出版会編集部	書籍「恐竜学」（東京大学出版会）への掲載	R6.11.1
18	両生類骨格、爬虫類骨格	2	和田直美（山口大学）	申請者執筆中の書籍への掲載、国立科学博物館での使用	R6.11.1
19	チェージャンゴプテルス頭骨レプリカ	1	株式会社技術評論社	技術評論社「地球生命 空の興亡史」への掲載	R6.11.16
20	ズンガリプテルス全身骨格レプリカ	1	技術評論社	書籍「地球生命 空の興亡史」への掲載	R6.12.26
21	ティラノサウルス、ステゴサウルス、エオラプトル、ギガノトサウルス、クリオロフォサウルス、プテラノドン	6	Gakken K12-1 事業部	書籍「学研の図鑑 LIVE 恐竜新版」（Gakken）の海外翻訳版への掲載	R7.1.24
22	バビルサ頭骨（3D画像）	1	群馬テレビ制作局制作部	番組「ダイアンのガチで！ごめんやす」での使用	R7.1.28
23	ニホンオオカミ頭骨	1	日本狼之棲館	企画展「日本大狼展」での使用	R7.3.12
24	北九州未来創造芸術祭「現世界の遠近法」用の作品として落合陽一氏が撮影した画像（仏教式タイムカプセル、環世界の遠近法、生と死の環世界・質量ある自然と非質量の自然の間に）	3	ジセカイ株式会社	落合陽一氏の作品集（KADOKAWA）への掲載	R7.3.27

(2) 歴史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	博物館主催講座を体験する未就学児写真 (ミュージアムティーチャー管理画像)	2	愛媛大学法学部 准教授 幸 泉満夫	幸泉満夫著『文化観光立国時代の◆やさしい 博物館概論』(芙蓉書房出版)に掲載のため	R6.7.9
2	「きをん踊」(村田成筆「豊国名所」のう ち)、「九州小倉合戦図」、「西国内海名所一覧」	3	かわうそ商会 代表取締役正 岡裕之	NHK 番組「新日本風土記」北九州・小倉 (仮)において、小倉の歴史・祇園太鼓の歴 史を説明する際に使用するため	R6.7.29
3	碁石頭伊予札萌黄糸威段替丸胴具足 (小笠原忠 真所用)	1	NHK 大阪放送局 コンテン ツセンター第3部部长 中根 健	NHK 番組「歴史探偵」立花宗茂(仮)制作の ため	R6.8.14
4	「宗祇馬上図」画像部分	1	株式会社 KANADEL	令和7年度版『光村の国語のワーク』(光村教 育図書株式会社)に掲載のため	R6.8.7
5	宝満山経塚出土経筒、有毛太郎坊経塚出土経 筒、西光寺鐘(竜頭・撞座あわせて3点)	5	吉川弘文館	松井和幸・新郷英弘著『鋳物と職人の文化史 —小倉鋳物師と琉球の鐘—』(歴史文化ライ ブラリー)に掲載のため	R6.8.27
6	権信吾氏所蔵写真(スキャンデータ)10点	10	テレビ西日本 番組プロ デューサー 江坂透	テレビ西日本「報道ワイド 記者のチカラ」の コーナー「マイニチ出口調査」での使用のため	R6.11.11
7	戸畑市鳥瞰図	1	戸畑区役所 区長 森川洋一	旧戸畑市制100年記念の動画での使用のため	R6.12.11
8	碁石頭伊予札萌黄糸威段替丸胴具足	1	戎光祥出版株式会社 代表取 締役 伊藤光祥	『歴史研究』729号の口絵コーナー「武士の 美」に掲載のため	R6.12.20
9	宗祇馬上図	1	有田川町教育委員会 教育長 片嶋博	有田川町教育委員会発行『有田川町の歴史』 (仮題)に掲載のため	R7.1.17
10	『九州の装飾古墳』P6-上 王塚古墳 奥壁石屋 形・石棚	1	福岡県教育庁教育総務部文 化財保護課長	『福岡県装飾古墳総合調査報告書』(福岡県 文化財調査報告書第288集)に掲載のため	R7.1.30
11	小倉城ジオラマ(北九州市立自然史・歴史博物 館常設展示)	1	実教出版株式会社 代表取締 役社長 小田良次	高等学校地理歴史科日本史探求教科書『精選 日本史探求 新訂版』に掲載のため	R7.2.10
12	『五世紀の北九州』(北九州市立考古博物館起案、 1989年) P35掲載23-1轡(池の上6号墳)、P35 掲載23-2鍬具、23-3鞍金具(池の上6号墳)、P62 掲載78-1・2鍛冶具(池の上6号墳)、P56掲載70 鉄鎌(池の上26号土壇墓)、P56掲載66-1・2U字 鋤・鍬先(古寺第2次2号墓周溝)	5	島根県教育庁文化財課 課長 村上千おる	動画「六世紀の出雲とヤマト—出雲の大型古 墳を語る—」(YouTubeチャンネルおよび県内 ケーブルテレビで公開)での使用のため	R7.2.12

20. 研究業績

(1) 普及課

1) 論文など (アルファベット順)

Kobayashi, S., Panha, S., Nantararat, N., Chaiphichet, K., Choosa-nga, P., Higashi, T., Denda, T., Izawa, M. 2025. Pollination system of *Mucuna thilandica* (Fabaceae), a species endemic to Thailand. *Mammal Study*, 51, 83-89. (査読あり)

Kobayashi, S., Sato, Y., Izawa, M. 2024. Omnivorous food habits of the endangered Ryukyu long-furred rat *Diplothrix legata* (Muridae) estimated using the DNA metabarcoding method. *Mammal Study*, 50, 185-198. (査読あり)

Tobe, A., Sato, Y., Wachi, N., Nakanishi, N., Izawa, M. 2024. Seasonal diet partition among top predators of a small island, Iriomotejima Island in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Scientific Reports*, 14, 7727. (査読あり)

2) 普及書など

なし

3) 学会等講演 (アルファベット順)

伊澤雅子・小林 峻・菊池隼人・柴原 崇. 2024. 長崎県対馬のツシマヤマネコ生息地におけるイエネコの食性. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

小林 峻・菊池隼人・伊澤雅子. 2024. 琉球大学千原キャンパスにおけるオリオオコウモリのねぐら利用の季節変化. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

中本 敦・中西 希・柴山理彩・伊澤雅子. 2024. ニホンジカの駆除は *Apodemus* 属 2 種のネズミ個体群をすみやかに回復させる? 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

中西 希・伊澤雅子. 2024. イリオモテヤマネコの頭骨と四肢骨形態の成長変化. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

基盤研究 (C). マメ科トビカズラ属をモデルとした広域分布種と局所分布種の送粉様式の差異の解明. 研究分担者: 伊澤雅子 (研究代表者: 小林 峻). 2022–2025 年度.

基盤研究 (C). 琉球諸島の哺乳類をモデルとした陸生哺乳類の島嶼適応に関する研究. 研究分担者: 伊澤雅子 (研究代表者: 林 昭次). 2023–2025 年度.

(2) 自然史課

1) 論文など (アルファベット順)

González, D. L., Nishikawa, K., Eto, K., Terui, S., Kamimura, R., Rodríguez, N. B., Yoshikawa, N., Tominaga, A. 2024. Lack of variations in the salamander chytrid fungus, *Batrachochytrium salamandrivorans*, at its alleged origin: Updating its Japanese distribution with new evidence. *PLOS ONE*, 19, e0305228–e0305228. (査読あり)

- Goto R., Takeshita F., Hirai, A., Tsuchihashi, A., Tanogashira, R., Yamamori, L., Asakura, A., Shimomura, M. in press. Sound production by vibration of the major cheliped in the ghost crab *Ocypode sinensis* (Ocypodidae). *Plankton and Benthos Research*. (査読あり)
- Hara, S., Yamamoto, K., Matsui, M., Tominaga, A., Yoshikawa, N., Eto, K., Fukutani, K., Ito, H., Nishikawa, K. 2025. Comparison of Head and Skull Shapes among Native *Andrias japonicus*, Introduced *A. davidianus*, and Their Hybrids in Japan (Urodela: Cryptobranchidae) based on Geometric Morphometrics. *Current Herpetology*, 44, 14–23. (査読あり)
- 日比野友亮. 2024. カニアナヤブカがボラ科魚類から吸血. *Niche Life*, 12, 67. (査読なし)
- Hibino, Y., Agyeman, E. 2025. First record of *Cirrhimuraena chinensis* (Actinopterygii: Anguilliformes: Ophichthidae) from Ise Bay, central Japan. *Species Diversity*, 30 (1), 17–24. (査読あり)
- Hibino, Y., Endo, S., Ho, H.-C. 2024. A new species of *Phyllophichthus* Gosline, 1951 (Actinopterygii, Ophichthidae) from Taiwan. *ZooKeys*, 1220, 35–44. (査読あり)
- Hibino, Y., Ho, H.-C. 2024. Species of the snake eel genus *Yirrkala* Whitley, 1940 from Taiwan, with descriptions of a new species and two new records (Anguilliformes, Ophichthidae). *ZooKeys*, 1220, 45–62. (査読あり)
- Hibino, Y., Ho, H.-C., Huang, J.-F. 2024. Descriptions of two new dark-body snake eels of the genus *Ophichthus* (Anguilliformes, Ophichthidae) from Taiwan. *ZooKeys*, 1220, 63–78. (査読あり)
- 日比野友亮・中島 淳・乾隆帝・鬼倉徳雄・安武由矢. 2025. 文献に基づく福岡県産魚類の目録, および標本に基づく種同定の訂正. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 23, 1–93. (査読あり)
- 日比野友亮・佐藤大義・高槻幸輝・岩崎朝生. 2024. 琉球列島から確認された *Enchelynassa canina* オニウツボ (新称). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 44, 43–47. (査読あり)
- 日比野友亮・田口智也・国松翔太. 2024. 2017年に宮崎県大淀川水系で確認されたオヤニラミ属魚類に関する追補. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47, 21–25. (査読あり)
- Huang, W.-C., Hibino, Y., Balisco, R. A., Liao, T.-Y. 2024. Description of a new uniformly brown estuarine moray eel (Anguilliformes, Muraenidae) from the Central Indo-Pacific Ocean. *ZooKeys*, 1220, 15–34. (査読あり)
- 唐沢典希・一田昌宏・御前明洋. 2025. 北海道三笠市の幾春別川水系菊面沢支流におけるサントニアン階より下位を示す軟体動物化石の産出. 三笠市立博物館紀要, 28, 1–13. (査読なし)
- 清原 愛・黒島健介・星野健一・森 康. 2024. 広島大学大学院先進理工系科学研究科地球惑星システム学プログラムが保管する鉱石資料の目録化. 広島大学総合博物館研究報告, 16, 1–22. (査読あり)
- Kodeeswaran, P., Ravinesh, R., Hibino, Y., Saravanane, N. 2024. A new species of finless ophichthid eel genus *Apterichtus* (Anguilliformes: Ophichthidae) from the Arabian Sea. *Ichthyological Research*, Online first, . (査読あり)
- Kongsurakan, P., Nakahara, T., Nakamura, Y., Yamaguchi, N. M. 2024. Colony attendance behavior in response to weather and moonlight conditions in Japanese Murrelets (*Synthliboramphus wumizusume*) depending on breeding status. *Journal of Ornithology*, 166, 383–397. (査読あり)
- Matsui, M., Nishikawa, K., Shimada, T., Eto, K., Hamidy, A., Sudin, A., Hossman, M. Y., Gumal, M., Vairappan, C. S. 2024. Revision of the *Limnonectes kuhlii*-like fanged frogs from Malaysian Borneo (Amphibia: Anura: Dicroglossidae). *Current Herpetology*, 43, 226–227. (査読あり)
- 松重一輝・安武由矢・坂上 嶺・日比野友亮・望岡典隆. 2024. ラジオテレメトリーを用いて観測された河川淡水域における銀ウナギの降河行動の1例. *魚類学雑誌*, 71 (2), 237–244. (査読あり)
- 蓑島悠介. 2024. 北九州市立自然史・歴史博物館所蔵の三好和雄コレクションにおける山口県産水生

- 甲虫目録. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 22, 26–35. (査読あり)
- Minoshima, Y. N., Watanabe, K. 2024. Morphology of the egg-case and larva of *Paracymus aeneus* (Germar) (Coleoptera: Hydrophilidae). *Zootaxa*, 5541 (2), 200–214. (査読あり)
- 三宅 武・堤内雄二・蓑島悠介. 2024. コヒラタガムシの福岡県からの初記録と大分県からの追加記録. さやばねニューシリーズ, 54, 4. (査読なし)
- Nakanishi, N., Tsubasaka, Y., Sawanaka, I., Kondo, K., Kobayashi, S., Izawa, M., Hayashi, S. 2025. An attempt at age estimation of the Ryukyu long-furred rat (*Diplothrix legata*) using tooth wear analysis: first report on the difference in molar wear patterns between rats in Okinawajima and Amami-Oshima Islands. *Mammal Study*, 50(2), 211–218. (査読あり)
- Nishiyama, T., Moribe, Y., Mori, Y., Shigeno, M. 2024. Significance of serpentinite-hosted exhumation channels in a palaeo-subduction complex, Nishisonogi unit, Nagasaki Metamorphic Complex: P–T trajectories of mélange blocks and coherent schists. *Island Arc*, 33, e12527. (査読あり)
- Shimonaka, J., Ôhara, M., Minoshima, Y. N. 2024. Distributional records of *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus, 1758) from Hokkaido, Japan, with notes of Japanese species of *Hydrobius* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra, New Series*, 14 (1), 75–84. (査読あり)
- 竹下文雄. 2024. ハクセンシオマネキの配偶行動と近隣個体との社会関係. *うみうし通信*, 125, 5–7. (査読なし)
- Takeshita, F. 2024. Mating behavior in varunid crab *Helicana japonica* (Decapoda: Varunidae: Cyclograpsinae). *Crustacean Research*, 53, 121–125. (査読あり)
- Tsuji, S., Doi, H., Hibino, Y., Shibata, N., Watanabe, K. 2024. Rapid assessment of invasion front and biological impact of invasive fish *Coreoperca herzi* using quantitative eDNA metabarcoding. *Biological Invasions*, 26, 3107–3123. (査読あり)
- 内田大貴・岩田泰幸・古旗峻一・蓑島悠介. 2024. 埼玉県におけるチビマルガムシの初記録. さやばねニューシリーズ, 56, 54–55. (査読なし)
- Vo, V. Q., Hibino, Y., Ho, H.-C., Le, T. T. T., Seah, Y. G. 2025. Two new snake eels (Anguilliformes, Ophichthidae, Ophichthus) from Viet Nam, with redescriptions of *O. macrochir* (Bleeker) and *O. rutidoderma* (Bleeker). *Zookeys*, 1231, 311–329. (査読あり)
- Vo, V. Q., Ho, H.-C., Hibino, Y., Le, T. T. T., Tran, H. H. T., Tran, T. C. 2024. Records of species of the snake eels genus *Ophichthus* (Family Ophichthidae) from Vietnam. *Vietnam Journal of Marine Science and Technology*, 24 (1), 59–71. (査読あり)
- 和田昇己・日比野友亮. 2024. 沖縄県石垣島初記録のナミダカワウツボ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47, 1–4. (査読あり)
- Watanabe, K., Minoshima, Y. N., Hayashi, M. 2024. Egg of *Hydraena hokuto* Hayashi et Iwata, 2023 (Coleoptera, Hydraenidae). *Elytra, New Series*, 14 (1), 85–86. (査読あり)

2) 普及書など (アルファベット順)

- 日比野友亮. 2024. 文学中に登場するウナギと人とのかかわり 『ごんぎつね』のウナギは産卵降河中の個体? *Niche Life* 12. pp. 103–104.
- 日比野友亮. 2024. 筑後川とウナギ. 田中 克・望岡典隆 (編) ニホンウナギ読本 ウナギの“想い”を探る 共に生きる未来へ. pp. 25–26. 花乱社, 福岡市.
- 日比野友亮. 2024. ふくおか川の川は、魚は今. (262). pp. 9–10. 福岡県河川協会, 福岡市.
- 日比野友亮. 2024. ふなんこぐいとふな市.ぎよぶる 12. pp. 64–67. 北九州・魚部, 北九州市.

- 真鍋 徹. 2024. 教育普及活動での活用. 高野温子・三橋弘宗 (編) 自然史博物館の資料と保存 pp. 84–87. 朝倉書店, 東京.
- 真鍋 徹. 2024. 龍良山の照葉樹林. 日本森林学会 (編) 図説 日本の森林 pp. 95. 朝倉書店, 東京.
- 蓑島悠介. 2024. がむしといふいきもの 沖縄のヒメマルガムシ.ぎよぶる 12. pp. 56–57 北九州・魚部, 北九州市.
- 太田泰弘. 2025. 地域の志に支えられた“いのちのたび”を基軸とした博物館. 日本地質学会 (編) 日本地質学会 News 28 (1) . pp. 8–9. 日本地質学会, 東京.
- 竹下文雄. 2024. カニの歌を聴くまで. 日本の学童ほいく, 592, pp. 6–7.
- 竹下文雄. 2025. 干潟に棲むハクセンシオマネキの生態. 日本の学童ほいく, 593, pp. 6–7.

3) 学会等講演 (アルファベット順)

- 江頭幸士郎. 2024. 本土・島嶼が繰り返す接続と分断は両生類の種多様性にどう影響するか? . 第 95 回日本動物学会長崎大会, 長崎大学.
- 江頭幸士郎. 2024. 展示・教育活動に向けた爬虫両棲類の新たな液浸標本の作製法開発. 第 63 回日本爬虫両棲類学会兵庫大会, 兵庫県立大学.
- Fujishima, K., Medo, A., Nishizawa, H., Hibino, Y., Mori, A. 2024. Insights into the trophic ecology of sea snakes in Japan from stomach content and stable isotope data. Society for the Study of Amphibians and Reptiles 2024 Meeting, University of Michigan.
- Fujishima, K., Medo, A., Nishizawa, H., Hibino, Y., Mori, A. 2024. Trophic ecology of sea snakes in Japan: insights from stomach content and stable isotope analysis. 10th World Congress of Herpetology, Borneo Convention Center.
- 日比野友亮・佐藤真央・松尾 怜・外山太一郎・小林大純・宿女太志・棟方航平・溝脇一輝・井上裕太・野村玲偉・遠藤詢介・高梨佑真・川西亮太・堀部 翔. 2024. 石垣島周辺の中有光層および稀有光層から得られた魚類. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.
- 檜垣健介・Seah Ying Giat・Sheikh Abdul Kadir Siti Tafzilmeriam・Mat Jaafar Tun Nurul Aimi・木村 清志・中江雅典・松沼瑞樹・日比野友亮・小林大純・中村潤平・松本達也・Cabebe-Barnuevo Roxanne・古橋龍星・是枝伶旺・出羽優風・本村浩之. 2024. マレー半島東岸クアantanの魚類多様性. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.
- 木村清志・笹木大地・日比野友亮・岡田 誠・武藤 滉・阿部公哉・榊原弘陸・淀 太我・武内 俊・大島夢加・宿女太志・松尾 怜・鈴木 啓. 2024. 三重県の魚類. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.
- 小西卓哉・三宅優佳・對比地孝亘・御前明洋・小松俊文. 2024. 甌島列島に分布する上部白亜系姫浦層群から産出した海生爬虫類化石. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学朝倉キャンパス.
- 松重一輝・大戸夢木・日比野友亮・望岡典隆. 2025. 河川汽水域の塩分勾配に着目した銀ウナギの生息地利用: 隠れ処の効果的な創出に向けて. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 北里大学.
- 蓑島悠介・渡部晃平. 2024. エンデンチビマルガムシ *Paracymus aeneus* (Germar) の幼虫形態. 日本甲虫学会第 14 回大会・日本昆虫分類学会第 27 回大会, 東京都立大学南大沢キャンパス.
- 御前明洋・加納 学. 2024. 穿孔性フジツボ類の穿孔痕を伴う白亜紀後期イノセラムス類とその古生態学的意義. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学朝倉キャンパス.
- 森 康・黒木 (佐藤) 直子・重野未来・西山忠男. 2024. 長崎変成岩野母ユニットにおける泥質片岩の曹長岩化過程: pulverization と reaction-enhanced permeability. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学.

- 村宮悠介・御前明洋・三上智之・吉田英一・勝田長貴・前田晴良. 2024. 殻化石が炭酸塩コンクリーションの形成と形状に与える影響. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学朝倉キャンパス.
- 中原 亨・伊関文隆・吉岡俊朗・長井和哉・雀ヶ野孝・大槻恒介・中山文仁・山口典之. 2025. 越冬なわばりを共有する渡り性猛禽類ノスリの雌雄間の社会関係. 第 72 回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター.
- 中原 亨・岡部海都・大槻恒介・天野孝保・野崎達也・大對桂一・山口典之. 2024. 玄界灘へ渡ってくるヒメクロウミツバメの移動経路と越冬海域. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京大学農学部キャンパス.
- 中本 敦・中西 希・柴山理彩・伊澤雅子. 2024. ニホンジカの駆除は *Apodemus* 属 2 種のネズミ個体群をすみやかに回復させる?. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 兵庫県立大学.
- 中西 希・伊澤雅子. 2024. イリオモテヤマネコの頭骨と四肢骨形態の成長変化. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 兵庫県立大学.
- 中島田正希・日比野友亮. 2024. 福岡県初記録のアジ科魚類 8 種. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.
- 西山忠男・外山茂樹・森 康・重野未来. 2024. 長崎変成岩野母ユニット中の蛇紋岩メランジュの構成岩種と形成場. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学.
- 太田泰弘. 2025. 地域博物館 (Community Museum) と地域地質 (Regional Geology) について～地質系学芸員の視点から～. 令和 6 年度日本地質学会西日本支部総会・第 175 回例会, 北九州市立自然史・歴史博物館.
- 太田泰弘・杉野広利. 2024. 共に学び・創る博物館教育. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学.
- 笹木大地・木村清志・日比野友亮・岡田 誠・武藤 滉・阿部公哉・榊原弘陸・淀 太我・武内 俊・大島夢加・宿女太志・松尾 怜・鈴木 啓. 2024. 三重県初記録の魚類. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.
- 下中淳ノ介・蓑島悠介・大原昌宏. 2024. 北海道におけるキタスジヒメガムシ (鞘翅目ガムシ科) の分布記録と日本産スジヒメガムシ属についての考察. 日本甲虫学会第 14 回大会・日本昆虫分類学会第 27 回大会, 東京都立大学南大沢キャンパス.
- Takeshita, F. 2024. Courtship disruptions by neighbor males reduce the thresholds of female preferences in the fiddler crab *Austruca lactea*. The Crustacean Society Summer Meeting 2024, Academia Sinica, Taiwan.
- 竹下文雄. 2024. ハクセンシオマネキにおける複雑な社会性 (自由集会: 同種・他種との相互作用が生み出す甲殻類の適応進化—行動から生理、生活史まで). 第 63 回日本甲殻類学会函館大会, 函館市民会館.
- 竹下文雄. 2024. 深層学習を用いたオキナワハクセンシオマネキのなわばり範囲の推定. 第 62 回日本甲殻類学会函館大会, 函館市民会館.
- 辻 冨月・日比野友亮・森本 昂・三内悠吾・渡辺勝敏. 2025. 胃内容物メタバーコーディングによる侵略的外来種コウライオヤニラミの捕食実態の把握. 第 72 回日本生態学会札幌大会, 札幌コンベンションセンター.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

学術変革領域研究 (B). 社会があれば知性はあるか: 甲殻類・水圏無脊椎動物の社会と認知能力を捉え直す. 研究分担者: 竹下文雄・三浦 収・磯村尚子 (研究代表者: 石原千晶 (安田千晶)). 2023–2025 年度.

国際共同研究加速基金（海外連携研究）. 毒餌を再利用するへび類の防御器官の多様化：新規生体システムの初期進化過程の探究. 研究分担者：江頭幸士郎（研究代表者：森 哲）. 2023–2026 年度.

基盤研究（B）. へび類の餌毒再利用による防御メカニズムの多様化：外的刺激依存から自発的攻防へ. 研究分担者：江頭幸士郎（研究代表者：森 哲）. 2021–2024 年度.

基盤研究（B）. 雑種形成から始まる種分化：日本産両生類を用いた新たな種多様性形成メカニズムの解明. 研究分担者：江頭幸士郎（研究代表者：西川完途）. 2024–2026 年度.

基盤研究（C）. 里山のすがたを科学的に伝えるための展示手法の開発. 研究代表者：真鍋 徹. 研究分担者：蓑島悠介・中原 亨・中西 希. 2022–2025 年度.

基盤研究（C）. 機械学習で読み解く蛇紋岩メランジュ形成の過程と影響. 研究代表者：森 康. 2020–2024 年度.

基盤研究（C）. 沈み込みプレート境界における蛇紋岩の変形と交代作用の連結現象. 研究代表者：森 康. 2024–2026 年度.

基盤研究（C）. 雄間競争と雌の配偶者選択の相互作用が織りなすシオマネキ類の性淘汰形質の適応進化. 研究代表者：竹下文雄. 2023–2026 年度.

基盤研究（C）. 採餌生態と頭骨・四肢形態比較に基づいたイリオモテヤマネコの小島嶼適応の解明. 研究代表者：中西 希. 2024–2027 年度.

基盤研究（C）. 半自然草原における人為的な草原管理がニホンノウサギの行動と生息数に与える影響. 研究分担者：中西 希・布目三夫（研究代表者：中本 敦）. 2022–2025 年度.

基盤研究（C）. 琉球諸島の哺乳類をモデルとした陸生哺乳類の島嶼適応に関する研究. 研究分担者：中西 希・伊澤雅子・久保麦野・小林 峻（研究代表者：林 昭次）. 2023–2025 年度.

若手研究. 渡り鳥における越冬地の社会関係を介したキャリアオーバー効果の実証. 研究代表者：中原 亨. 2022–2025 年度.

若手研究. 南シナ海西部インドシナ半島縁辺域における熱帯-温帯性魚類の分布障壁の解明. 研究代表者：日比野友亮. 2020–2024 年度.

【その他の外部資金】

公益財団法人中辻創智社. DNA 情報に基づく水生ガムシ類の普通種と広域分布種の再検証. 研究代表者：蓑島悠介. 2024–2025 年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 希少海鳥カンムリウミスズメの保護増殖に関する研究 —大規模捕食被害からの回復を助ける—. 研究分担者：中原 亨（研究代表者：山口典之）. 2023–2025 年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者：中西 希. 2022–2024 年度.

公益財団法人 JAC 環境動物保護財団 2024 年度助成. イリオモテヤマネコの行動追跡調査に基づく交通事故防止策の立案とエコツアーによる影響評価. 研究分担者：中西 希（研究代表者：伊澤雅子）. 2024 年度.

(3) 歴史課

1) 論文・著書など (五十音順)

【学術書・論文等】

- 日比野利信. 2024. 「博物館のまち・北九州市の創造」『地方史研究』第 431 号, pp. 82-84. (査読なし)
- 日比野利信. 2024. 「安川敬一郎と福岡市」『市史研究ふくおか』第 20 号, pp. 56-64. (査読なし)
- 日比野利信・上野晶子・中西義昌. 2025. 「特別展「なつかしい暮らしと道具展」の成果と課題」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類歴史』第 22 号, pp. 1-11. (査読なし)
- 日比野利信. 2025. 「東アジア友好博物館交流事業の軌跡」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類歴史』第 22 号, pp. 13-23. (査読なし)
- 宮元香織. 2024. 「島嶼部の古墳からみた「海民」について」『日本考古学の論点』下. 雄山閣, pp. 115-122. (査読なし)
- 宮元香織. 2024. 「北九州における海岸部古墳について」『九州前方後円墳研究会論集』九州前方後円墳研究会, pp. 223-231. (査読なし)
- 宮元香織. 2025. 「北部九州における海神について」『東アジアの海港都市と海神信仰』、北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 15-23. (査読なし)
- 守友 隆. 2024. 「栗田口吉光作「博多藤四郎」の伝来過程—徳川将軍家・黒田家・小笠原家へと受け継がれた短刀—」『福岡地方史研究』第 62 号, pp. 67-80. (査読あり)
- 守友 隆. 2025. 「対馬藩と長州藩の尊王攘夷派の交流—「御内用日記」を中心に—」令和 2~6 年度科学研究費 基盤研究 (C) 研究成果報告書『幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に』研究代表者：守友 隆, pp. 28-54. (査読なし)

2) 資料紹介・書評など (五十音順)

- 守友 隆. 2025. 「対馬宗家文書「豊前国小倉之者朝鮮国江漂流候覚書控」の紹介」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類歴史』第 22 号, pp. 36(1)-25(12). (査読あり)

3) 普及書など (五十音順)

- 佐藤凌成. 2024. 「北九州をめぐる戦国争乱」『記録』(小倉郷土会) 第 28 号, pp. 78-81.
- 守友 隆. 2024. 「小笠原騒動—小倉藩小笠原家の御家騒動—」『記録』(小倉郷土会) 第 28 号, pp. 86-93.

4) 学会等講演・報告 (五十音順)

- 日比野利信. 2024. 「改正博物館法の施行と課題」九州史学研究会歴史資源部会第 2 回研究会. 九州大学西新プラザ. 2024 年 5 月 19 日.
- 富岡優子. 2024. 「中将姫にあやかる女性たちと藕糸織」仏教文学会シンポジウム『広がる中将姫説話と當麻曼荼羅—中世から近世へ—』京都女子大学. 2024 年 10 月 20 日.
- 富岡優子. 2025. 「藤井玉欄 北九州の日本画家」近世美術史研究会. 福岡市美術館. 2025 年 1 月 13 日.
- 宮元香織. 2024. 「北部九州における海神について」『東アジアの海港都市と海神信仰』旅順博物館. 2024 年 11 月 19 日.

5) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

- 基盤研究 (C) 小倉織の基礎的研究. 研究代表者：上野晶子. 研究分担者：日比野利信. 2020-24 年度.

基盤研究 (C) 小倉織の多様化に関する総合的研究. 研究代表者：上野晶子. 研究分担者：日比野利信. 2024-2026年度.

基盤研究 (C) 藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に—. 研究代表者：富岡優子. 2020-2024年度.

基盤研究 (C) 戦国大名領国に関する文献史学・考古学・城郭史の総合的研究—豊後大友氏の検討から—. 研究代表者：中西義昌. 2021-2024年度.

基盤研究 (C) 石炭資源をめぐる政治と都市社会. 研究代表者：日比野利信. 2023-2025年度.

基盤研究 (C) 幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に—. 研究代表者：守友 隆. 2020-2024年度.

基盤研究 (C) 日本古代菓子の飲食・供膳様式の解明と菓子再現活用の研究—東アジアの食膳研究その2—. 研究分担者：宮元香織 (研究代表者：前川佳代). 2022-2025年度.

【その他の外部資金】

全国科学博物館振興財団助成金「歴史・自然・科学の視点を融合した展示手法や五感による展示理解学習の実践」担当者：上野晶子. 2024年度.

(公財) カメイ社会教育振興財団 博物館に関する国際交流に対する助成「東アジア友好博物館シンポジウム「東アジアの海港都市と海神信仰」開催事業」担当者：宮元香織. 2024年度.

2 1. 博物館刊行物

(1) 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史)

J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>) にてフリーアクセス公開しています。

第 22 巻 (1-25 ページは令和 5 年度出版)

園山貴之・久志本鉄平・石橋敏章・河野光久. 日本初記録種を含む山口県日本海側で得られたシャコ類の標本に基づく記録. [Records on some mantis shrimps (Malacostraca: Stomatopoda) collected from the Sea of Japan, Yamaguchi Prefecture, including a new record from Japan] pp. 1-15.

中島広喜. シマナシヒロハシャコ (口脚目: ヒラメホソユビシャコ科) の標本に基づく報告. [Specimen-based record of *Faughnia serenei* (Stomatopoda: Parasquillidae) in Japan] pp. 16-20.

内山旬人・内山えりか・蓑島悠介. キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (M'Lachlan) は九州に分布するのか? [Is *Libelloides ramburi* (M'Lachlan) distributed in Kyushu Island, Japan?] pp. 21-25.

蓑島悠介. 北九州市立自然史・歴史博物館所蔵の三好和雄コレクションにおける山口県産水生甲虫目録 [List of aquatic beetles collected from Yamaguchi Prefecture, Japan in Kazuo Miyoshi collection in Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, Japan] pp. 26-35.

船越公威・衣笠淳・渡邊啓文・江寄真南・奥谷公亮. 福岡県で初めて発見されたモリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi* の音声, 形態的特徴および mtDNA 塩基配列 (CO1 領域) に基づく遺伝的解析 [First record of the Endo's pipistrelle (*Pipistrellus endoi*) in Fukuoka Prefecture, Japan: echolocation calls, morphological characteristics, and genetic analysis based on mitochondrial CO1 sequences] pp. 36-40.

第 23 巻 (2025 年 3 月 31 日現在)

日比野友亮・中島淳・乾隆帝・鬼倉徳雄・安武由矢. 文献に基づく福岡県産魚類の目録, および標本に基づく種同定の訂正 [Annotated checklist of the fishes of Fukuoka Prefecture based on literatures, with preliminary reassessments of species records based on voucher specimens] pp. 1-93.

(2) 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 (歴史) 第 22 号 (2025 年 3 月 31 日発行)

【博物館活動報告】

日比野利信「東アジア友好博物館交流事業の軌跡」 pp. 1-11.

日比野利信・上野晶子・中西義昌「昔の道具の展示と博学連携—特別展「なつかしい暮らしと道具展」に寄せて—」 pp.13-23.

【資料紹介】

守友 隆「対馬宗家文書「豊前国小倉之者朝鮮国江漂流候覚書控」の紹介」 pp. 36 (1) -25 (12) .

(3) 第 3 回東アジア友好博物館シンポジウム要旨集「東アジアの海港都市と海神信仰」

(2025 年 3 月 31 日発行)

【基調講演】 秦 岭 「大連地区における海神信仰研究—海神娘娘を主として」

【関連報告】 劉 芳 「旅順天妃廟」

宮元香織「北部九州における海神について」

金 玟姫「林慶業、崔瑩將軍から見た仁川西・南海岸地域の海洋信仰事例紹介」

【附 編】 日比野利信「東アジア友好博物館交流事業の軌跡」 ※上記 (2) 所収論稿の再掲



博物館公式キャラクター「いのたん」

年 報

令和 6 年度

令和 7 年 9 月 24 日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<https://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY

2024 Kitakyushu Museum of Natural History and Human History. All Rights Reserve